令和７（2025）年度
県民歯科口腔保健実態調査
報告書

長　野　県

長野県歯科医師会

松本歯科大学

目　次

第１章　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
第２章　調査結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
第３章　調査結果
　１　被調査者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
　２　口腔内所見
　　１）歯の状態(永久歯)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10
　　２）歯周組織の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17
　　３）補綴物の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
　３　他の所見
　　１）口腔清掃状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
　　２）歯石沈着・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22
　　３）その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23
　４　質問紙票調査
　　１）歯や口の状態で気になるところ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25
　　２）歯をみがく頻度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
　　３）歯みがき以外の口腔内清掃・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27
　　４）過去１年間の歯科検診の受診状況とその種類・・・・・・・・・・・・・　28
　　５）喫煙習慣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31
　　６）現在治療を受けている病気・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31
参考情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　34
参考資料
　令和７年度県民歯科口腔保健実態調査実施要領・・・・・・・・・・・・・・・　35
　令和７年度県民歯科口腔保健実態調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・　36

第1章　調査の概要

1　調査の目的

県民の歯科口腔保健に関する意識や客観的な口腔内状況を正確に把握することは、長野県が実施する歯科口腔保健対策事業の効果を客観的に評価する上で極めて重要である。また、長野県歯科口腔保健推進条例に掲げられた基本的施策の実施状況の確認、および信州保健医療総合計画における歯科口腔保健指標の進捗管理・評価を行うための強固な基礎資料を獲得し、今後の県民の健康寿命延伸に向けた歯科口腔保健医療対策の推進に資することを目的とする。

2　調査期間

令和7年9月1日から令和7年 12 月 27 日まで

3　調査対象および選定方法

本調査の実施に先立ち、長野県内の 20 郡市歯科医師会（以下、「郡市会」と称する）ごとに、所属する自治体の性別・年齢（5歳刻み）別人口構成割合を基準として総計が 2,000 人規模となるよう調査対象人数を按分し、各地区の目標人数を設定した。各郡市会のコーディネーターにより、この目標数を達成できるよう会員歯科診療所に対して年齢・性別に応じた対象者数が割り当てられた。各診療所では、通院受診患者の中から対象の年齢および性別が一致する者を無作為に抽出し、本調査への協力同意が得られた 15 歳以上の県民 1,965 人を最終的な被調査者として選定した。

4　調査項目

（1）生年月日
（2）性別
（3）対象者属性
（4）歯の状況：現在歯の状況（歯冠および歯根のう蝕の有無）、処置の状況、喪失歯の状況
（5）欠損補綴の状況
（6）歯肉の状況：歯肉出血、歯周ポケット
（7）他の所見：口腔清掃状態、歯石の沈着状況、その他
（8）歯や口の状態
（9）歯をみがく頻度
（10）歯磨き以外の清掃の実施状況
（11）過去1年間の歯科検診の受診状況とその種類
（12）喫煙習慣
（13）現在治療を受けている病気

5　調査実施に係る連携協力

本調査の実施に当たっては、「長野県と松本歯科大学との歯科口腔保健の推進に関する協定書」（令和2年2月締結）に基づき、松本歯科大学公衆衛生学講座から連携協力を受けた。具体的には、調査対象者数の設定、調査票内容に関する助言、調査結果の分析及び本報告書の作成に当たり、専門的見地から助言及び協力をいただいた。

第2章　調査結果の概要

1　被調査者

被調査者数は1,965人で、内訳は男性956人（48.7％）、女性1,009人（51.3％）であった。

2　口腔内所見（主なもの）

1）むし歯（永久歯）を有する者の割合

永久歯におけるむし歯を有する（歯冠部にう蝕経験を有する）者の割合は全体では95.4％であった。15～19歳が64.5％で、加齢に伴い増加し、30歳以上では90％を超え、60歳代以上では100％に達した。

本調査から追加された根面う蝕については、未処置の根面う蝕は55歳以上から増加する傾向がみられ、最高割合は80～84歳の7.6％であった。

一人平均DMF歯数（一人当たり平均のむし歯を経験した歯の総数[D：未処置歯、M：喪失歯、F：処置歯の合計]）は全体では15.2本であった。15～19歳が4.3本で、加齢に伴い増加し、85歳以上で22.1本であった。

2）20本以上の歯を有する者の割合（8020達成者等）

20本以上の歯を有する者の割合は全体が82.7％で、加齢に伴い減少し、85歳以上では44.8％であった。

80歳で20本以上自分の歯を有する者（8020達成者：75～84歳で20本以上保有）の割合は63.3％で、前回調査の59.5％から増加し、全国値（61.5％）より高かった。

3）一人平均現在歯数

一人平均現在歯数は全体では24.0本で、年齢別にみると前回調査（24.8本）をやや下回ったが、85歳以上では前回調査16.4本に対して本調査では17.3本であった。

4）4㎜以上の歯周ポケットを有する者の割合

4mm以上の歯周ポケットを有する者は全体で69.3％であった。そのうち6mm以上のポケットを有する者は26.2％であった。年齢別にみると、15～19歳が21.5％で、概ね加齢に伴いその割合は高くなり、85歳以上では83.6％であった。

3　他の所見（主なもの）

1）口腔清掃状態

口腔清掃状態が「良好」、「普通」、「不良」の者の割合は、男性がそれぞれ34.2％、51.5％、14.3％、女性がそれぞれ46.3％、45.2％、8.4％で、良好である者の割合は、女性が高い傾向であった。

2）歯石沈着

歯石沈着がある者は、「多い」あるいは「中等度」の者が男性38.4％、女性25.2％で、歯石沈着量は男性が多い傾向であった。

4　質問紙票調査（主なもの）

1）歯や口の状態で気になるところ

「噛めないものがある」と回答した者は若年者では非常に少ない傾向が見られ、加齢に伴って増加し、80歳以上で20.2％と最も高くなった。

「飲み込みにくい、むせやすい」と回答した者は、「噛めないものがある」と回答した者より少ないが、ほぼ同様の傾向を示し、最高割合は70～79歳の7.1％であった。

「口がかわく」と回答した者は50～59歳、60～69歳、70～79歳および80歳以上でそれぞれ11.1%、10.5%、13.5%および16.7%といずれも10%を超え、おおむね加齢に伴い増加した。

「口臭がある」と回答した者は30～69歳までの年齢群で10%を超え、若年者や高齢者よりも中間年齢層で高くなる傾向が見られた。

2)過去1年間の歯科検診の受診状況とその種類

この1年間で歯科検診を「受けた」と答えた者は、男女それぞれ77.0％、76.9％で、ほぼ差はなく、性差は認められなかった。

定期的歯科検診を歯科医院で受けている者の年次推移を平成 25、28 および令和4年度の本県の実態調査の結果と経年比較すると、15～19 歳および 50～59 歳を除いてすべての年代で本調査の結果が最も高い割合であった。

第3章　調査結果

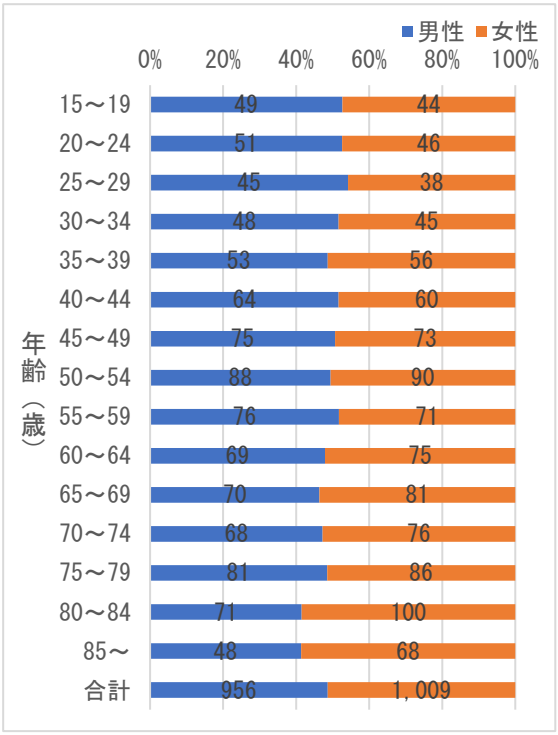
1　被調査者

本調査における有効被調査者 1,965 人の男女別年齢構成は、男性 956 人（48.7%）、女性 1、009 人（51.3%）であり、男女比はおおむね均等であった 。平均年齢（±標準偏差）は 55.6（±20.4）歳で、性別にみると男性は 54.3（±20.4）歳、女性は 56.8（±20.4）歳であった。年齢群（5 歳刻み）別の人数をみると、最多が 50～54 歳の 178 人で、最少が 25～29 歳の 83 人であった（表1、図1）。

【表 1】年齢別被調査者数　　（人）

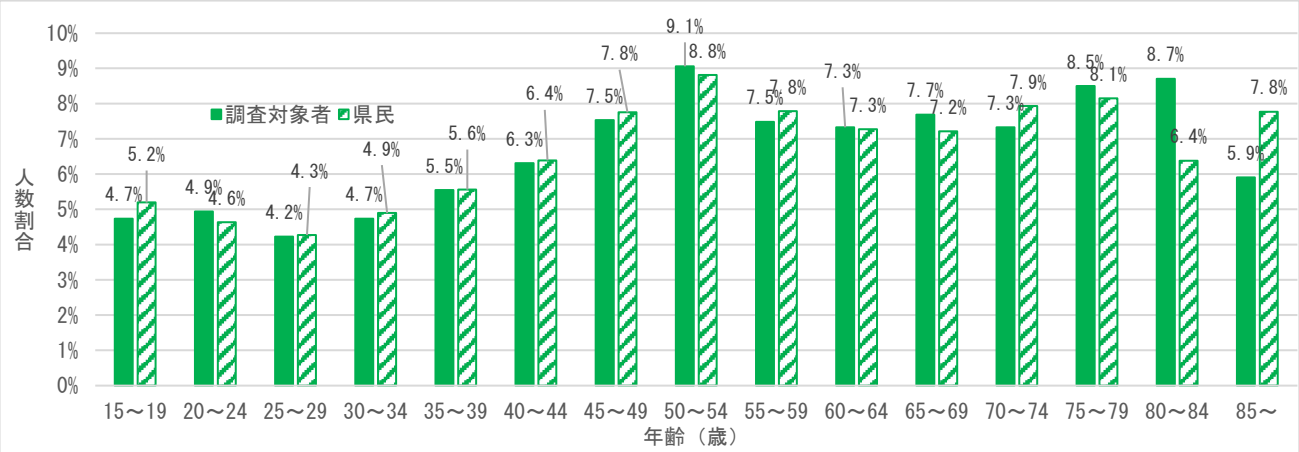
年齢階級 （歳）	男性	女性	合計
15～19	49	44	93
20～24	51	46	97
25～29	45	38	83
30～34	48	45	93
35～39	53	56	109
40～44	64	60	124
45～49	75	73	148
50～54	88	90	178
55～59	76	71	147
60～64	69	75	144
65～69	70	81	151
70～74	68	76	144
75～79	81	86	167
80～84	71	100	171
85～	48	68	116
合計	956	1,009	1,965

【図1】被調査者の性別割合



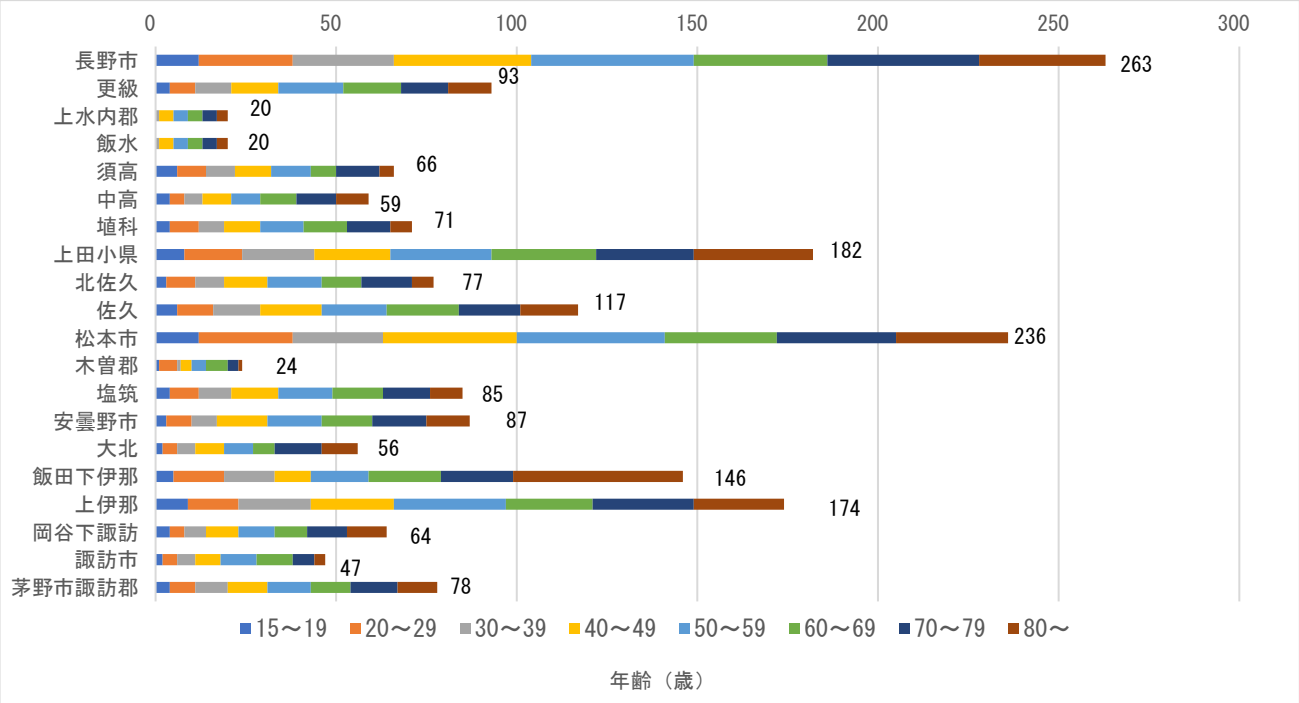
また、対象者の年齢別人数割合を長野県民全体（令和 7 年 4 月 1 日現在）と比較すると、 80～84 歳が県民全体 6.4%に対して 8.7%と高く、85 歳以上が県民全体 7.7%に対して 5.9%と低かったが、概ね県民全体の年齢別人口構成割合に沿ったものとなった（図2）。

【図2】被調査者及び県民の年齢別人数割合分布

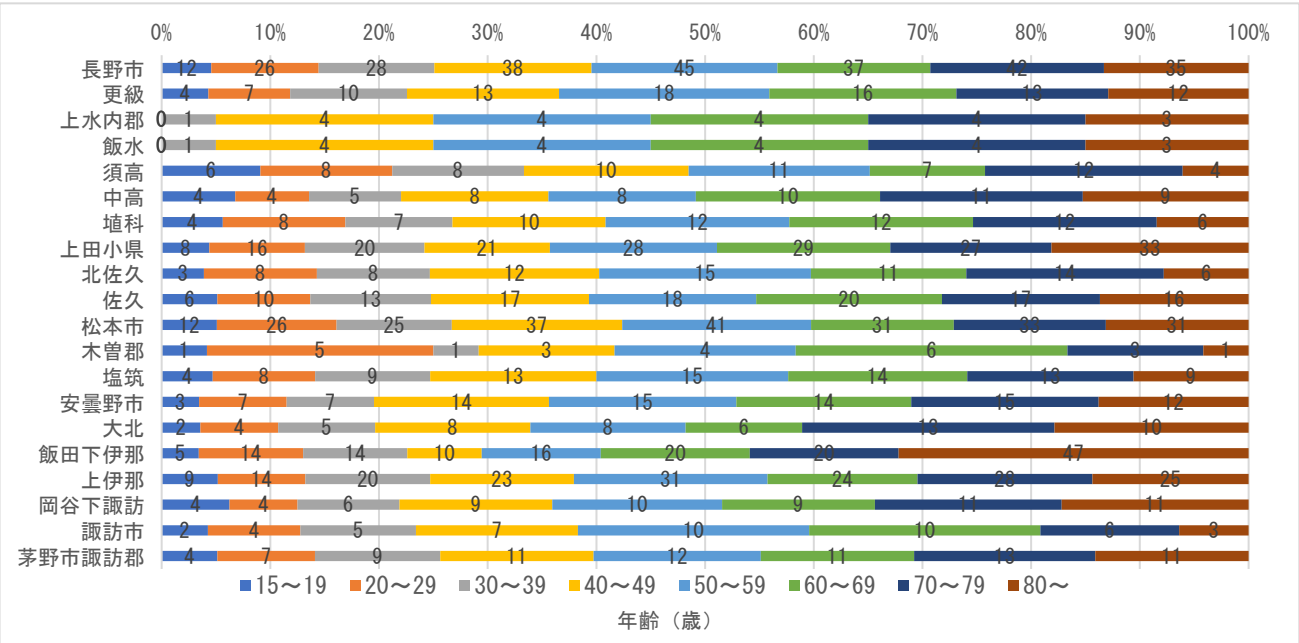


次に、被調査者数を郡市会別にみると、最多は長野市歯科医師会の 263 人であり、最少は上水内郡歯科医師会および飯水歯科医師会の 20 人であった(図3)。さらに被調査者数の割合を年齢別にみると、60 歳以上の者の割合は、最高の飯田下伊那歯科医師会の 59.5%から最小の須高歯科医師会(須坂市・上高井郡)の 34.8%までと大きな幅があった(図4)。

【図3】郡市会別被調査者数



【図4】郡市会・年齢別被調査者数の割合



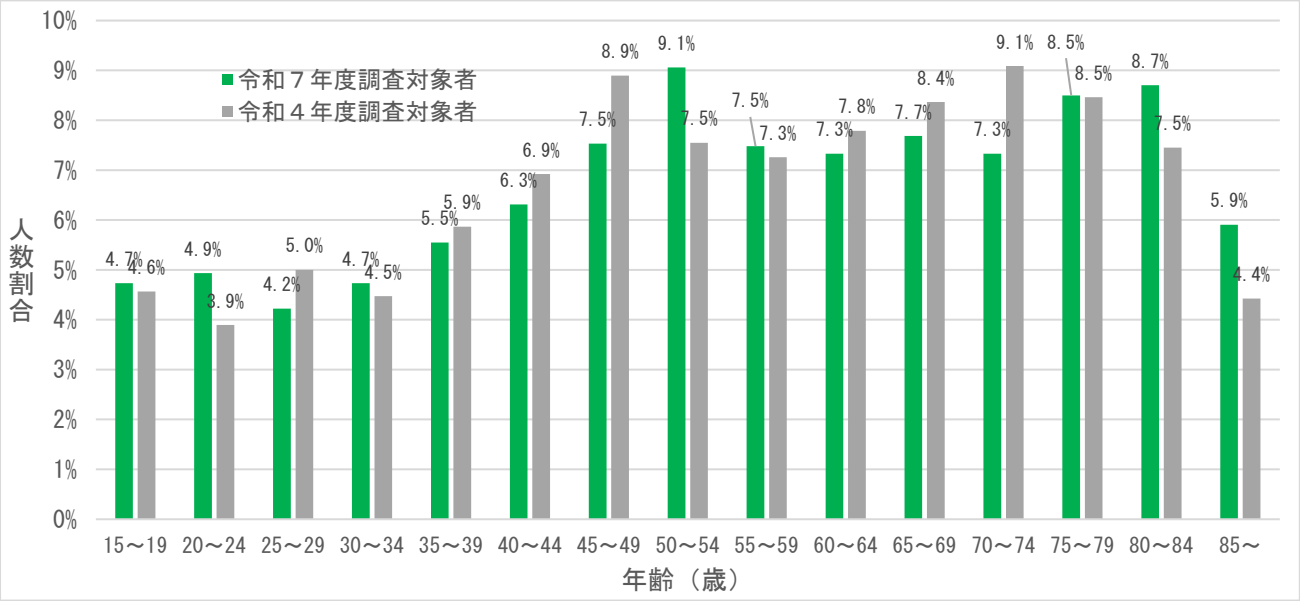
調査が実施された施設数は全体で 206 施設であり、1 施設あたりの平均被調査者数は 9.5 人(最少 1 人、最多 60 人)であった 。実施施設数を郡市会別にみると、大北歯科医師会(21 施設)が最も多く、飯水歯科医師会および佐久歯科医師会(各 3 施設)が最も少なかった(表2)。

【表2】調査実施施設数と被調査者数

郡市会名	実施施設数	施設あたり被調査者数（人）		
		平均	最少	最多
長野市	17	15.5	5	18
更級	10	9.3	6	10
上水内郡	10	2.0	2	2
飯水	3	6.7	6	7
須高	9	7.3	4	12
中高	10	5.9	5	6
埴科	8	8.9	1	12
上田小県	7	26.0	23	27
北佐久	15	5.1	4	6
佐久	3	39.0	5	60
松本市	19	12.4	9	17
木曽郡	4	6.0	6	6
塩筑	4	21.3	14	33
安曇野市	11	7.9	5	10
大北	21	2.7	1	7
飯田下伊那	11	13.3	10	17
上伊那	11	15.8	2	30
岡谷下諏訪	16	4.0	2	10
諏訪市	8	5.9	4	7
茅野市諏訪郡	9	8.7	6	11
合計	206	9.5	1	60

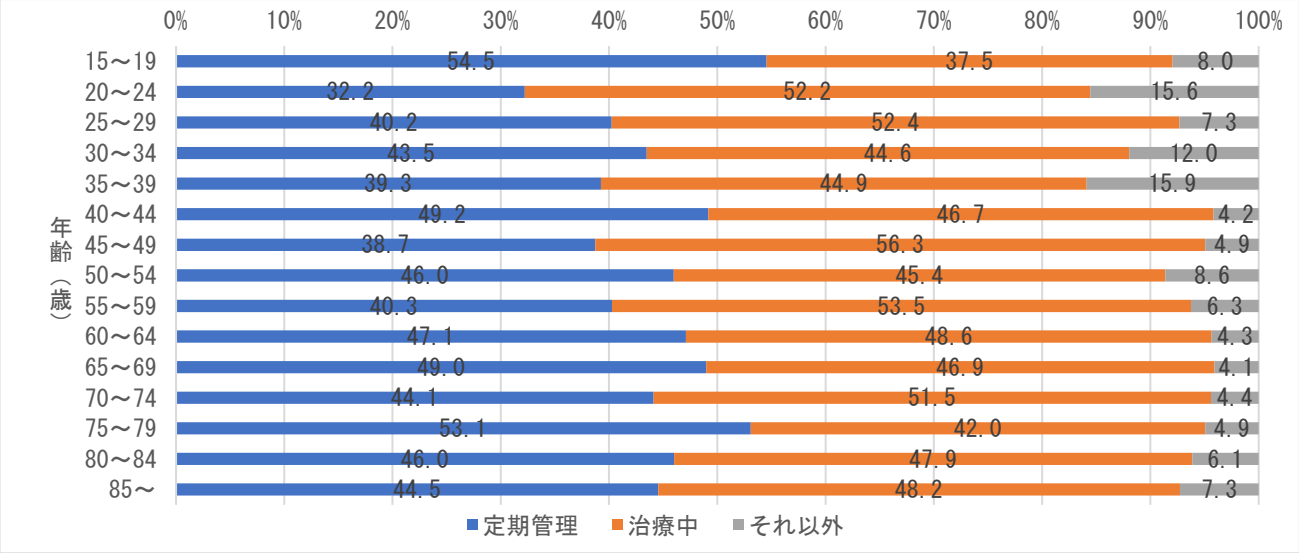
また、前回調査の被調査者と年齢別人数の割合を比較すると、若年者あるいは高齢者で年齢区分により多寡が異なり、両年度の分布の差に一定の傾向は無かった（図5）。

【図5】本調査及び前回調査における被調査者の年齢別人数の割合分布



個別健診形式をとる本調査の特性上、被調査者の来院目的（対象者属性）を記録したところ、歯科診療所に定期的メインテナンスのために来院している「定期管理中」の割合が全体の 44.9%を占めた（図6）。

【図6】被調査者の属性


0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
年齢（歳）
15～19 54.5 37.5 8.0
20～24 32.2 52.2 15.6
25～29 40.2 52.4 7.3
30～34 43.5 44.6 12.0
35～39 39.3 44.9 15.9
40～44 49.2 46.7 4.2
45～49 38.7 56.3 4.9
50～54 46.0 45.4 8.6
55～59 40.3 53.5 6.3
60～64 47.1 48.6 4.3
65～69 49.0 46.9 4.1
70～74 44.1 51.5 4.4
75～79 53.1 42.0 4.9
80～84 46.0 47.9 6.1
85～ 44.5 48.2 7.3
定期管理
治療中
それ以外

2 口腔内所見

1) 歯の状態(永久歯)

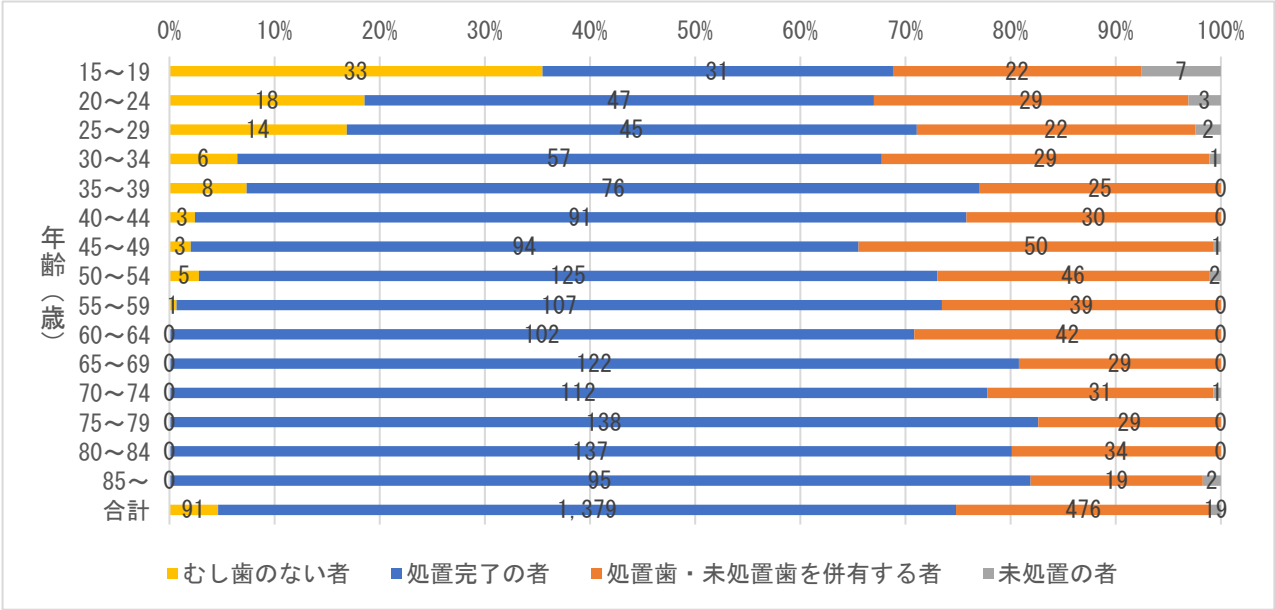
(1) むし歯(う歯)を有する者の割合

永久歯におけるむし歯を有する(歯冠部にう蝕経験を有する)者の割合は全体で 95.4%となり、15～19 歳では 64.5%であったが、加齢とともに急増し 30～34 歳で 93.6%、60 歳代以上では 100%に達した 。また本調査から、令和 6 年度の国の歯科疾患実態調査(以下、「全国調査」)に倣い歯冠う蝕とは別に根面う蝕の所見が追加された。根面う蝕は一般的に加齢に伴い歯肉が退縮することによって顕在化する。したがって、割合は最高 80～84 歳の 7.6%とさほど高くはないが、 55 歳以上から未処置の根面う蝕を有する者の割合が増加する傾向が見られた(表3、図7)。

【表3】むし歯を有する者の数及び割合

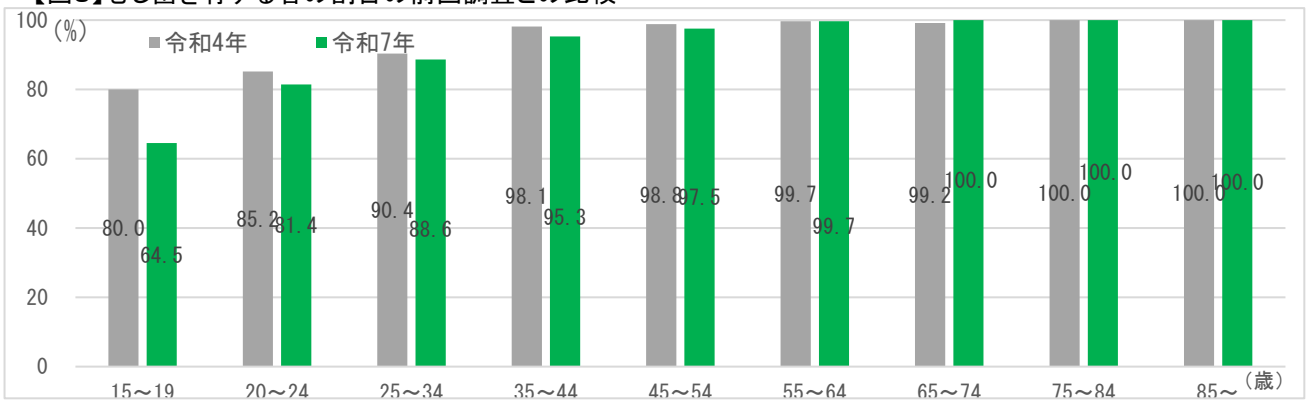
年齢階級(歳)	被調査者数(人)	人数(人)						割合(%)					
		むし歯のない者	むし歯を有する者					むし歯のない者	むし歯を有する者				
			総数	処置完了の者	処置歯・未処置歯を併有する者	未処置の者	未処置の根面う蝕を有する者		総数	処置完了の者	処置歯・未処置歯を併有する者	未処置の者	未処置の根面う蝕を有する者
15～19	93	33	60	31	22	7	1	35.5	64.5	33.3	23.7	7.5	1.1
20～24	97	18	79	47	29	3	1	18.6	81.4	48.5	29.9	3.1	1.0
25～29	83	14	69	45	22	2	0	16.9	83.1	54.2	26.5	2.4	0.0
30～34	93	6	87	57	29	1	2	6.5	93.5	61.3	31.2	1.1	2.2
35～39	109	8	101	76	25	0	1	7.3	92.7	69.7	22.9	0.0	0.9
40～44	124	3	121	91	30	0	2	2.4	97.6	73.4	24.2	0.0	1.6
45～49	148	3	145	94	50	1	6	2.0	98.0	63.5	33.8	0.7	4.1
50～54	178	5	173	125	46	2	5	2.8	97.2	70.2	25.8	1.1	2.8
55～59	147	1	146	107	39	0	2	0.7	99.3	72.8	26.5	0.0	1.4
60～64	144	0	144	102	42	0	6	0.0	100.0	70.8	29.2	0.0	4.2
65～69	151	0	151	122	29	0	8	0.0	100.0	80.8	19.2	0.0	5.3
70～74	144	0	144	112	31	1	9	0.0	100.0	77.8	21.5	0.7	6.3
75～79	167	0	167	138	29	0	11	0.0	100.0	82.6	17.4	0.0	6.6
80～84	171	0	171	137	34	0	13	0.0	100.0	80.1	19.9	0.0	7.6
85～	116	0	116	95	19	2	7	0.0	100.0	81.9	16.4	1.7	6.0
合計	1,965	91	1,874	1,379	476	19	74	4.6	95.4	70.2	24.2	1.0	3.8

【図7】むし歯を有する者の割合



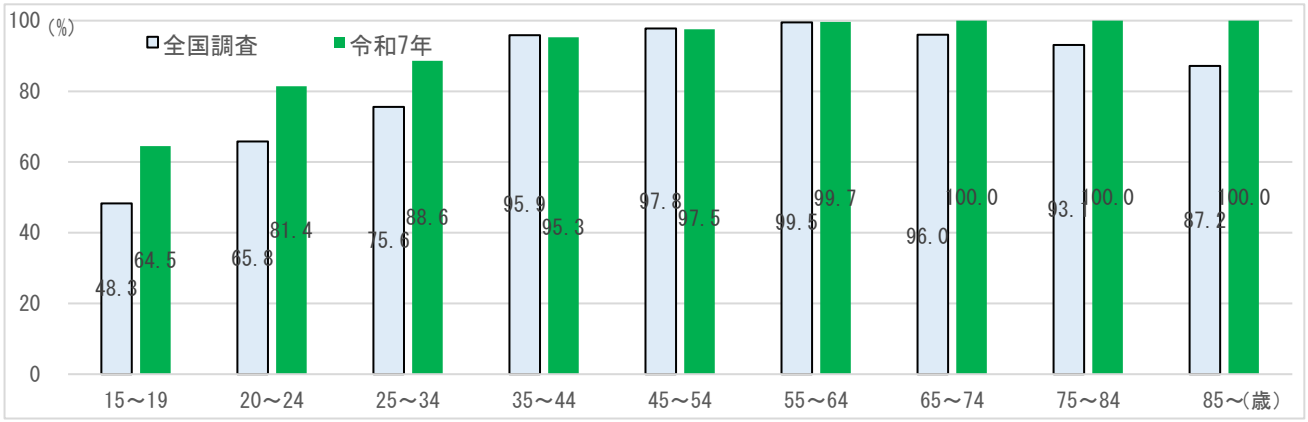
本調査と前回調査との比較では、15～19 歳のむし歯を有する者の割合はそれぞれ 64.5%および 80.0%であり、本調査のほうが著しく低かった。20～34 歳においても本調査のほうが低い傾向であったが、35 歳以上ではともに 100%近くとなり差は無くなった(図8)。

【図8】むし歯を有する者の割合の前回調査との比較



また、本調査と厚生労働省が実施した「令和 6 年歯科疾患実態調査」(以下「全国調査」という。)との比較では、15～19 歳でそれぞれ 64.5%および 48.3%であり、本調査のほうが高い傾向であったが年齢が上がるにしたがってその差は縮まった。しかしながら、65 歳以上になると全国調査での割合が下がり始め、85 歳以上ではそれぞれ 100%および 87.2%となった(図9)。

【図9】むし歯を有する者の割合の全国調査との比較



(2)一人平均DMF歯数

DMF歯とは、D(Decayed tooth):未処置のむし歯、M(Missing tooth):むし歯が原因で抜去された歯、F(Filled tooth):むし歯が原因で処置された歯を意味する。

一人平均DMF歯数とは、一人当たり平均のむし歯を経験した歯の総数を指し、計算式は以下のとおりである。

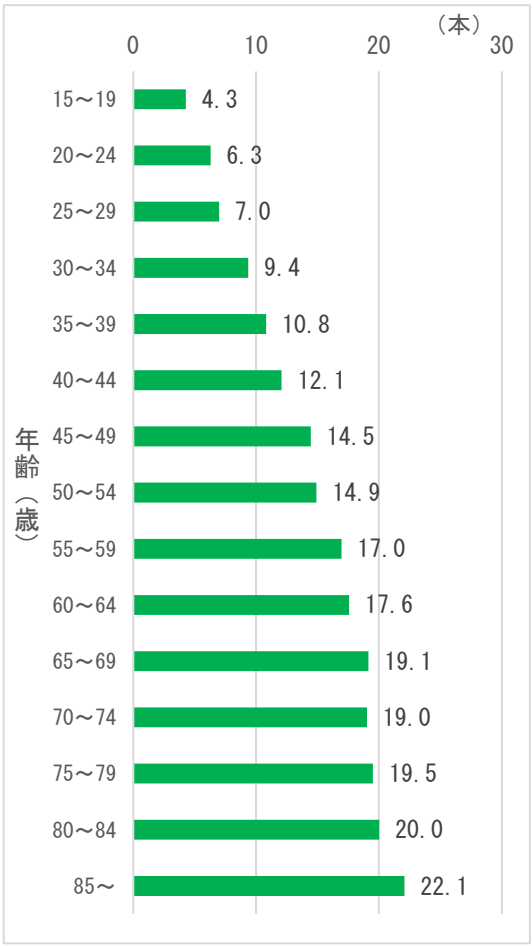
一人平均DMF歯数 ＝ (各集団の)被調査者全員のDMF歯数の合計 ÷ (各集団の)被調査者数

一人平均 DMF 歯数は全体 15.2 本で、最少の 15～19 歳が 4.3 本で加齢とともに増加し、85 歳以上で 22.1 本であった(表4、図 10)。

【表4】一人平均 DMF 歯数　　（本）

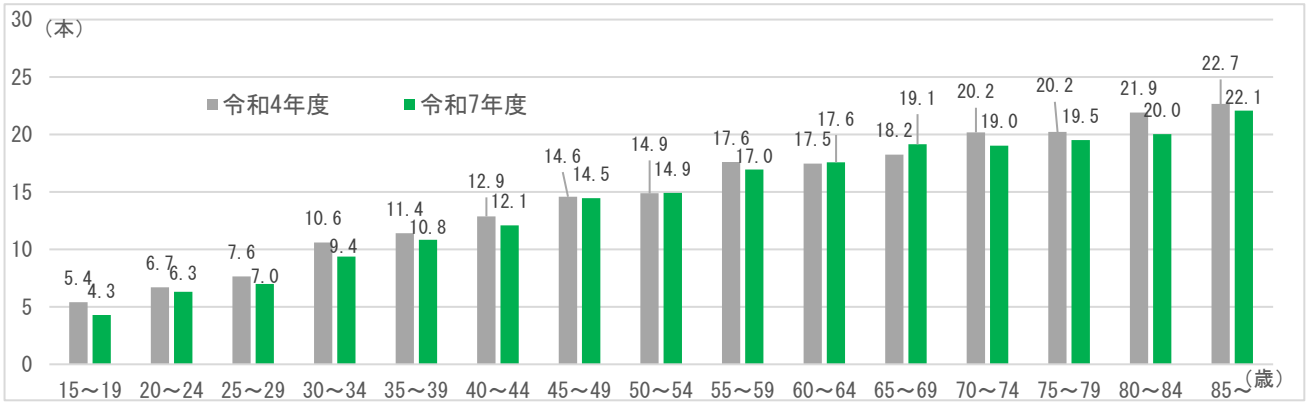
年齢階級（歳）	被調査者数（人）	1人平均未処置歯数（D）	1人平均喪失歯数（M）	1人平均処置歯数（F）	1人平均DMF歯数
15～19	93	1.6	0.0	2.7	4.3
20～24	97	1.5	0.1	4.8	6.3
25～29	83	1.0	0.1	5.9	7.0
30～34	93	1.2	0.3	7.9	9.4
35～39	109	0.7	0.3	9.8	10.8
40～44	124	0.7	0.4	11.0	12.1
45～49	148	1.1	0.9	12.4	14.5
50～54	178	0.8	1.1	13.0	14.9
55～59	147	0.8	2.5	13.7	17.0
60～64	144	0.5	2.4	14.7	17.6
65～69	151	0.5	3.9	14.8	19.1
70～74	144	0.7	5.3	13.1	19.0
75～79	167	0.4	6.7	12.4	19.5
80～84	171	0.4	8.2	11.4	20.0
85～	116	0.7	10.8	10.6	22.1
合計	1,965	0.8	3.2	11.2	15.2

【図 10】一人平均 DMF 歯数



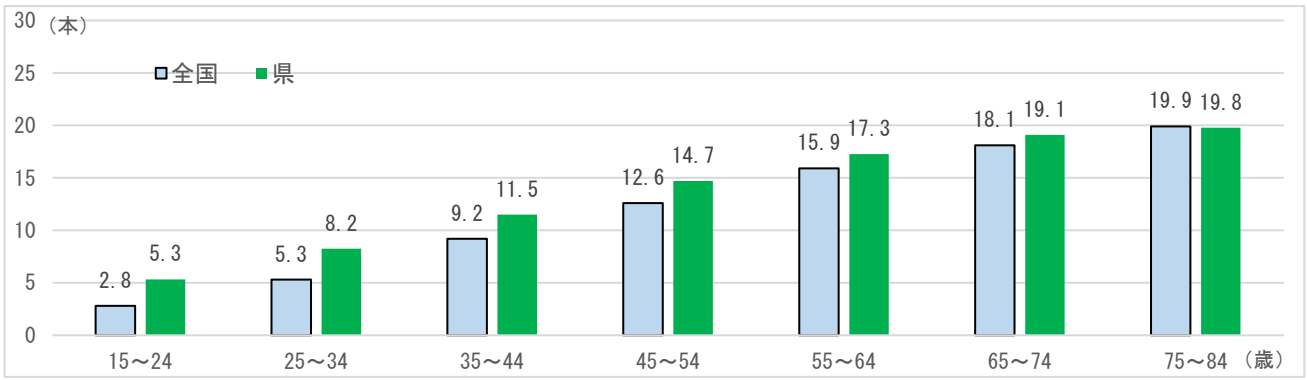
前回調査との比較では、むし歯を有する者の割合と同様に 15～44 歳までは本調査は低い値を示し、45 歳以上になると概ね同程度の値で推移したが、70 歳以上では本調査は低い値を示した（図 11）。

【図 11】一人平均 DMF 歯数の前回調査との比較



全国調査との比較では、15～24 歳で全国の 2.8 本に対して本県が 5.3 本と多く、若年層で倍近い開きがあるものの、加齢とともにその差は縮まり 85 歳以上では全国の 22.7 本に対して本県は 22.1 本と全国平均をやや下回った。

【図 12】一人平均 DMF 歯数の全国調査との比較



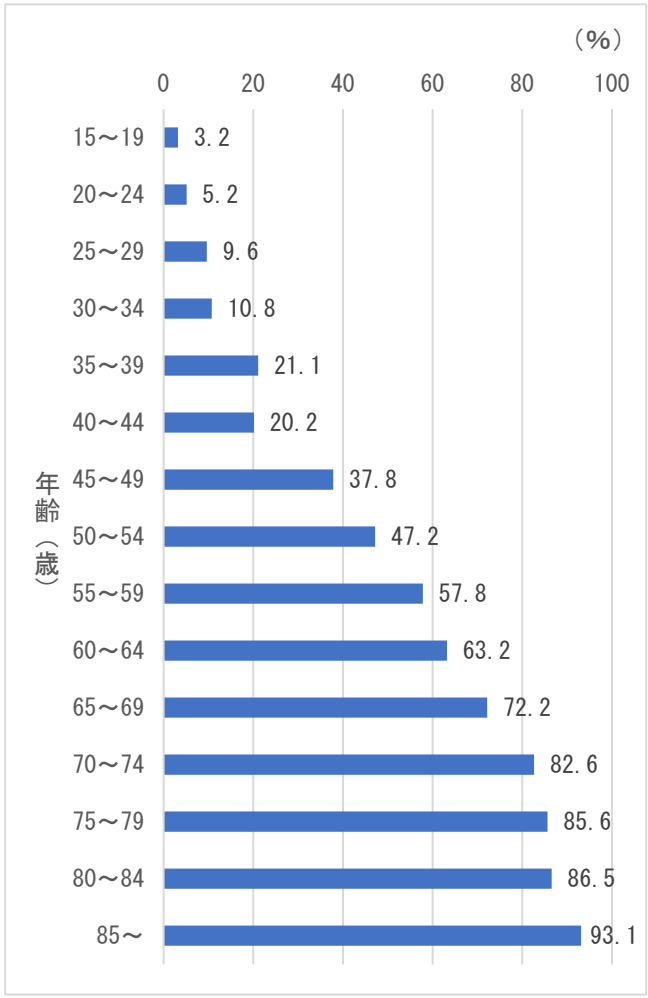
(3) 喪失歯を有する者の割合

喪失歯を有する者の割合は全体で 51.8%、年齢群別では 30 歳未満では 10%に満たなかったが、加齢とともに増加傾向を示し、85 歳以上が 93.1%であった（表5、図 13）。また、無歯顎者は 11 名（0.6%）で全て 65 歳以上であった。

【表5】喪失歯を有する者の割合

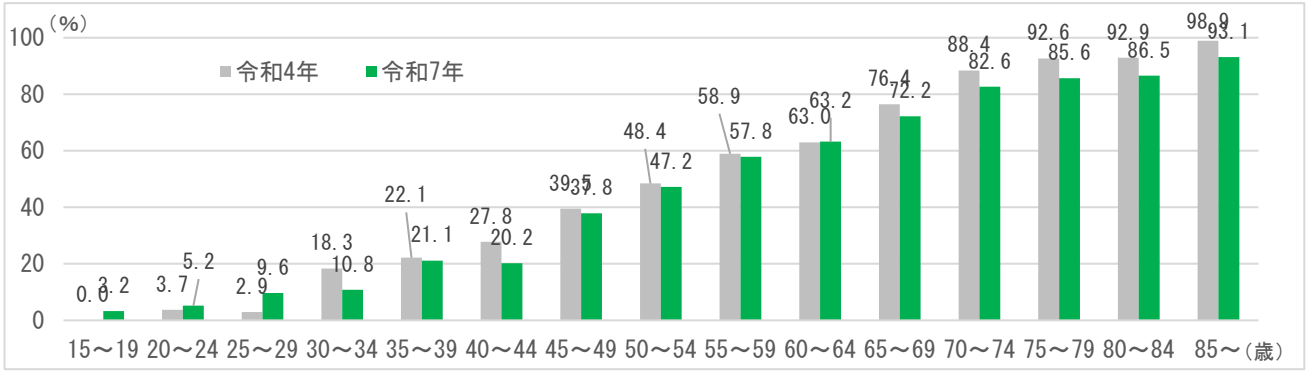
年齢階級（歳）	被調査者数（人）	喪失歯を有する者（人）	喪失歯を有する者の割合（%）
15～19	93	3	3.2
20～24	97	5	5.2
25～29	83	8	9.6
30～34	93	10	10.8
35～39	109	23	21.1
40～44	124	25	20.2
45～49	148	56	37.8
50～54	178	84	47.2
55～59	147	85	57.8
60～64	144	91	63.2
65～69	151	109	72.2
70～74	144	119	82.6
75～79	167	143	85.6
80～84	171	148	86.5
85～	116	108	93.1
合計	1,965	1,017	51.8

【図 13】喪失歯を有する者の割合



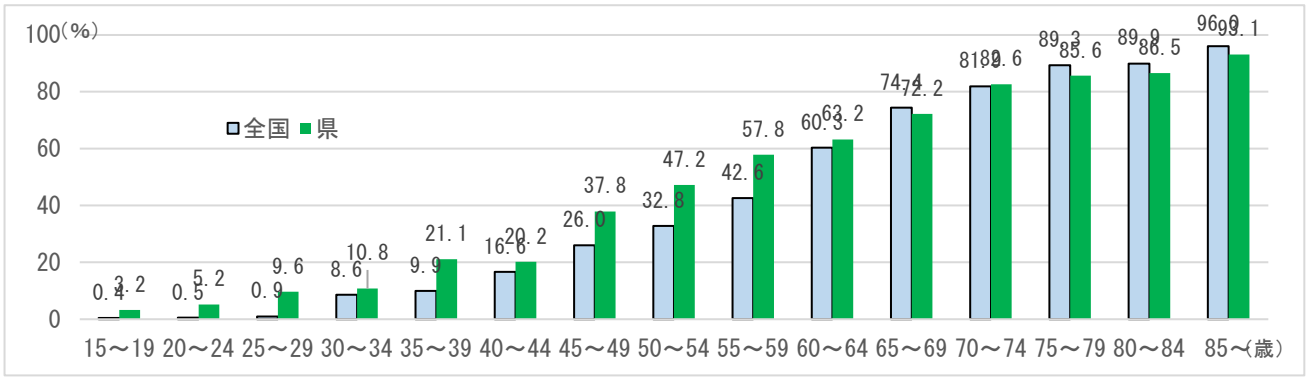
前回調査との比較では、30 歳以上のすべての年齢群で本調査対象者の方がやや低い傾向を示した（図 14）。

【図 14】喪失歯を有する者の割合の前回調査との比較



全国調査との比較では、64 歳未満までは本調査のほうが高い傾向を示したが、65 歳以上では 70～74 歳を除き全ての年齢群で本調査のほうが低かった(図 15)。

【図 15】喪失歯を有する者の割合の全国調査との比較



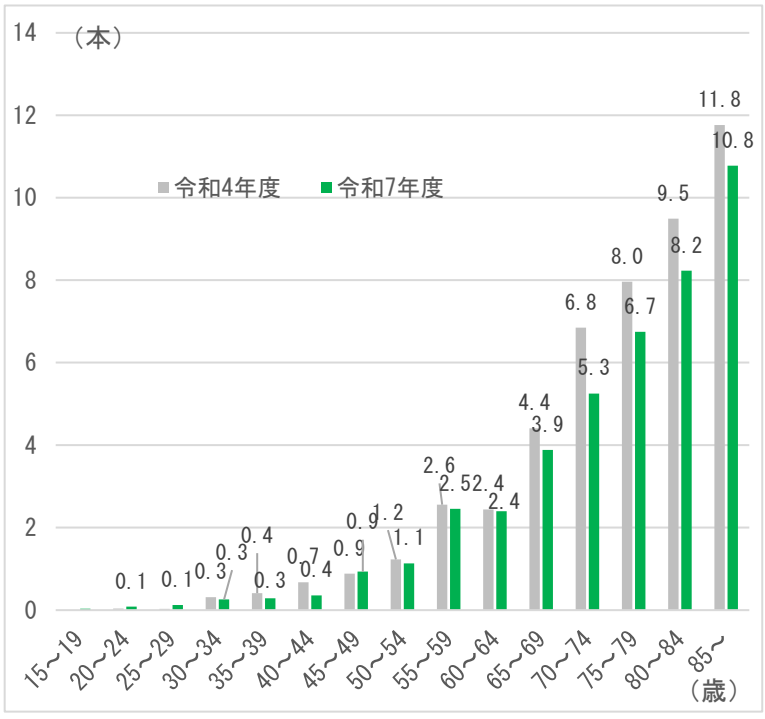
(4) 一人平均喪失歯数

一人平均喪失歯数は全体では 3.2 本で、年齢別にみるとおおむね前回調査の値を下回る傾向を示した(表6、図 16)

【表6】一人平均喪失歯数

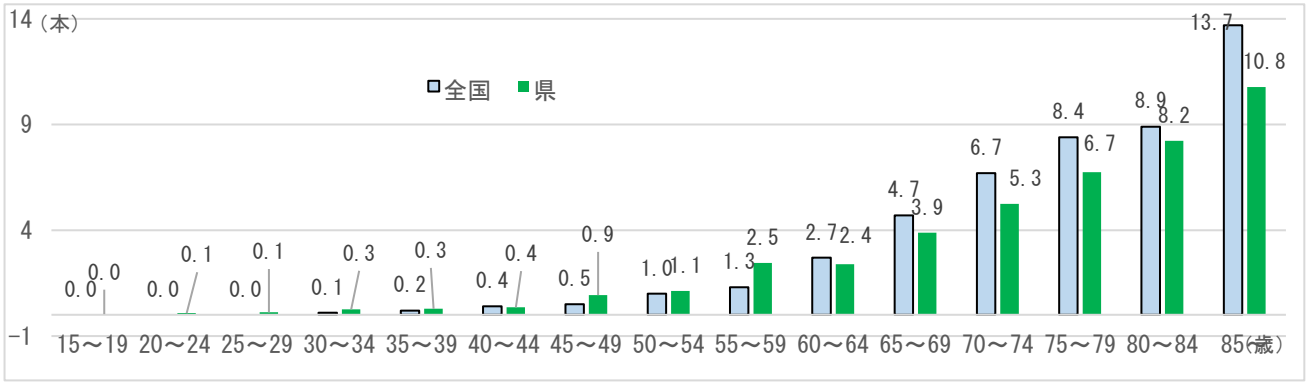
年齢階級（歳）	令和 4 年度（本）	令和 7 年度（本）
15～19	0.0	0.0
20～24	0.0	0.1
25～29	0.0	0.1
30～34	0.3	0.3
35～39	0.4	0.3
40～44	0.7	0.4
45～49	0.9	0.9
50～54	1.2	1.1
55～59	2.6	2.5
60～64	2.4	2.4
65～69	4.4	3.9
70～74	6.8	5.3
75～79	8.0	6.7
80～84	9.5	8.2
85～	11.8	10.8
全体	3.5	3.2

【図 16】一人平均喪失歯数の前回調査との比較



全国調査との比較では、60 歳未満までは全国よりも多い傾向を示したが、60 歳以上ではすべての年齢群で全国平均値を下回り、85 歳以上では全国 13.7 本に対して本調査 10.8 本であった（図 17。）

【図 17】一人平均喪失歯数の全国調査との比較



(5) 20 本以上の歯を有する者※の割合（8020達成者等）

20 本以上の歯を有する者の割合は、全体では 82.7%で、加齢に伴い減少し、85 歳以上では 44.8%であった（表7）。

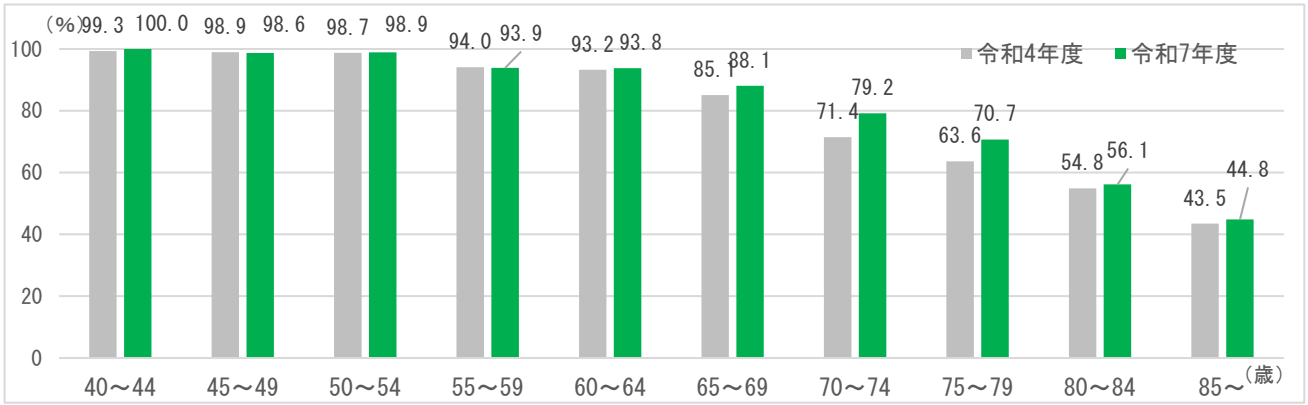
※「20 本以上の歯を有する者」とは、現在歯数が 20 本以上の者をいう。なお、現在歯には智歯（親知らず）を含む。

【表7】20 本以上の歯を有する者の割合

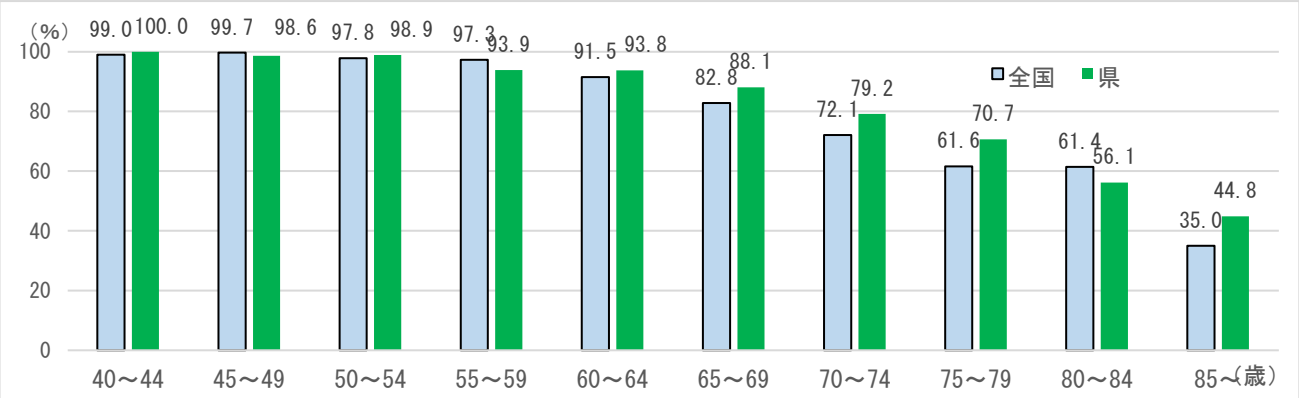
年齢階級（歳）	被調査者数（人）	人数（人）			割合（%）		
		男	女	合計	男	女	平均
40～44	124	64	60	124	100.0	100.0	100.0
45～49	148	75	71	146	100.0	100.0	98.6
50～54	178	88	88	176	100.0	100.0	98.9
55～59	147	68	70	138	89.5	89.5	93.9
60～64	144	63	72	135	91.3	91.3	93.8
65～69	151	59	74	133	84.3	84.3	88.1
70～74	144	56	58	114	82.4	82.4	79.2
75～79	167	56	62	118	69.1	69.1	70.7
80～84	171	39	57	96	54.9	54.9	56.1
85～	116	21	31	52	43.8	43.8	44.8
全体	1,490	589	643	1,232	83.0	82.4	82.7

前回調査と比較すると、65 歳以上で本調査対象者の方が高く、全国調査との比較では 45～49 歳、55～59 歳および 80～84 歳でやや全国値の方が高かったが、他の年齢群ではいずれも本調査の方が高かった（図 18、19）。

【図 18】20 本以上の歯を有する者の割合の前回調査との比較



【図 19】20 本以上の歯を有する者の割合の全国調査との比較

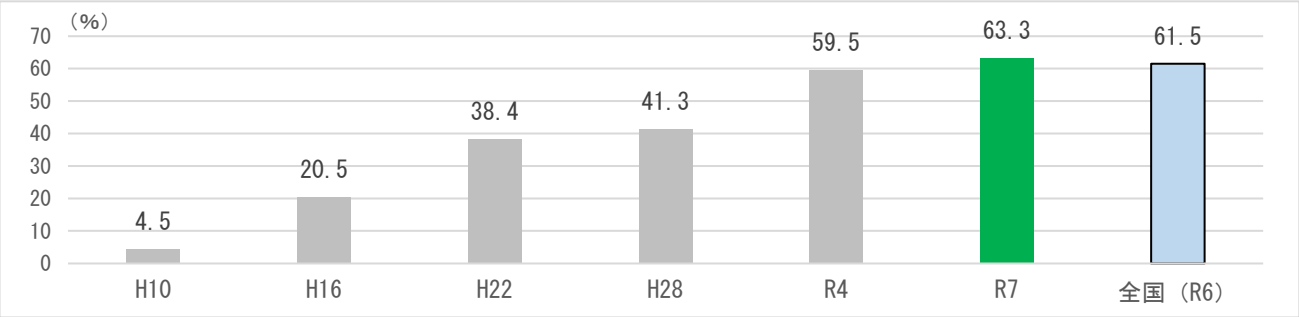


また、80 歳で 20 本以上自分の歯を有すると推測される者（8020 達成者；75～84 歳で 20 歯以上保有）の割合は 63.3%（男性 62.5%、女性 64.0%）で、前回調査の 59.5%から増加した。全国調査における 8020 達成者の割合は 61.5%で前回に引き続き本県の方が高い結果となった（表8、図 20）。

【表8】80 歳で 20 本以上の歯を有する者の割合

年齢階級（歳）	被調査者数（人）	人数（人）			割合（%）		
		男性	女性	計	男性	女性	平均
80 歳（75～84）	338 （男性 152、女性 186）	95	119	214	62.5	64.0	63.3

【図 20】80 歳で 20 本以上の歯を有する者の割合の年次推移



また、60 歳で 24 本以上自分の歯を有すると推測される者（6024 達成者；55～64 歳で 24 本以上保有）の割合は 82.8%（男性 76.6%、女性 89.0%）であった。

【表9】60 歳で 24 本以上の歯を有する者の割合

年齢階級（歳）	被調査者数（人）	人数（人）			割合（%）		
		男性	女性	計	男性	女性	平均
60 歳（55～64）	291 （男性 145、女性 146）	111	130	241	76.6	89.0	82.8

(6) 一人平均現在歯数

現在歯とは、歯の全部または一部が口腔に現れているものをいう。智歯（親知らず）がある場合は対象とするが、過剰歯は含めず、癒合歯（2本以上の歯が癒着した状態の歯）は1歯として取り扱う。

一人平均現在歯数は全体 24.0 本で喪失歯数とは逆の傾向を示し、 加齢とともに本調査の方がやや上回り、85 歳以上では前回調査 16.4 本に対して本調査では 17.3 本であった（表 10、11、図 21）。

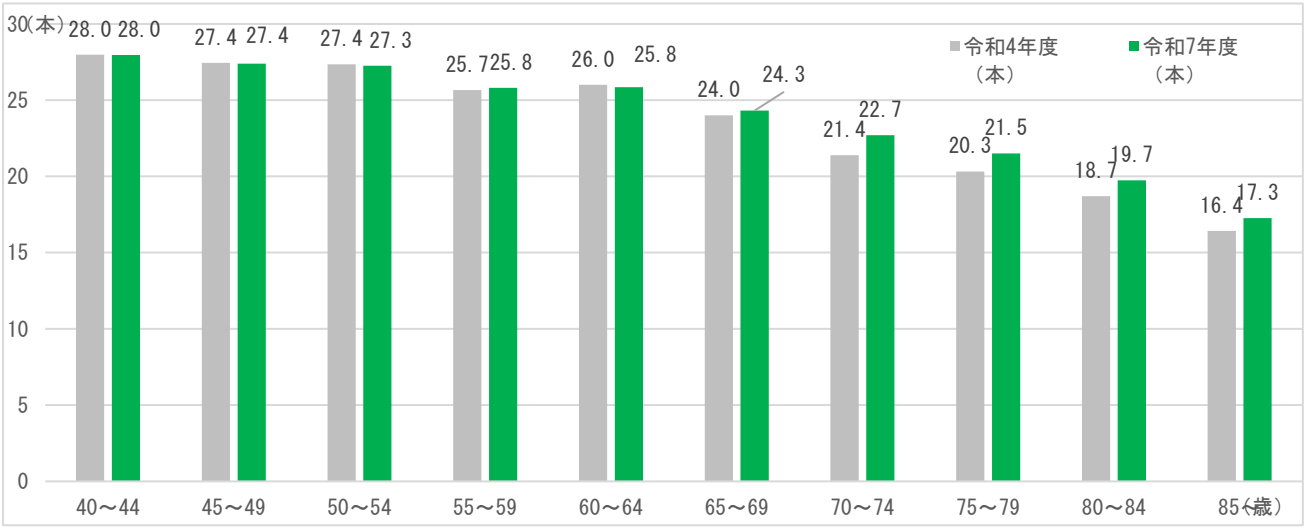
【表 10】一人平均現在歯数

年齢階級（歳）	被調査者数（人）	1 人平均現在歯数（本）		
		男性	女性	合計
40～44	124	27.9	28.0	28.0
45～49	148	27.5	27.3	27.4
50～54	178	27.2	27.3	27.3
55～59	147	24.8	26.9	25.8
60～64	144	25.3	26.4	25.8
65～69	151	23.5	25.0	24.3
70～74	144	22.7	22.7	22.7
75～79	167	21.8	21.2	21.5
80～84	171	19.5	19.9	19.7
85～	116	17.4	17.1	17.3
全体	1,490	24.0	24.0	24.0

【表 11】一人平均現在歯数の前回調査との比較

年齢階級（歳）	令和 4 年度（本）	令和 7 年度（本）
40～44	28.0	28.0
45～49	27.4	27.4
50～54	27.4	27.3
55～59	25.7	25.8
60～64	26.0	25.8
65～69	24.0	24.3
70～74	21.4	22.7
75～79	20.3	21.5
80～84	18.7	19.7
85～	16.4	17.3

【図 21】一人平均現在歯数の前回調査との比較



2) 歯周組織の状況

歯周組織の診査方法において、前回調査同様に萌出している全ての歯（乳歯を除く）を対象とした。

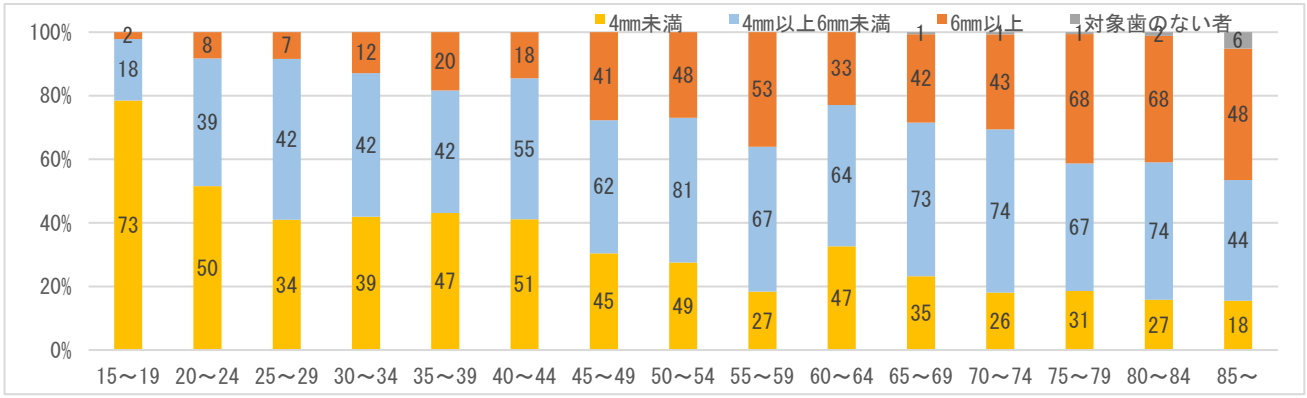
(1) 歯周ポケットを有する者の割合

4mm 以上の歯周ポケットを有する者の割合は全体で 69.3%、さらに 6mm 以上のポケットを有する者は 26.2%であった。年齢別にみると、15～19 歳が 21.5%でおおむね加齢とともにその割合は高くなり、85 歳以上では 83.6%であった（表 12、図 22）。

【表 12】歯周ポケットを有する者の数及び割合

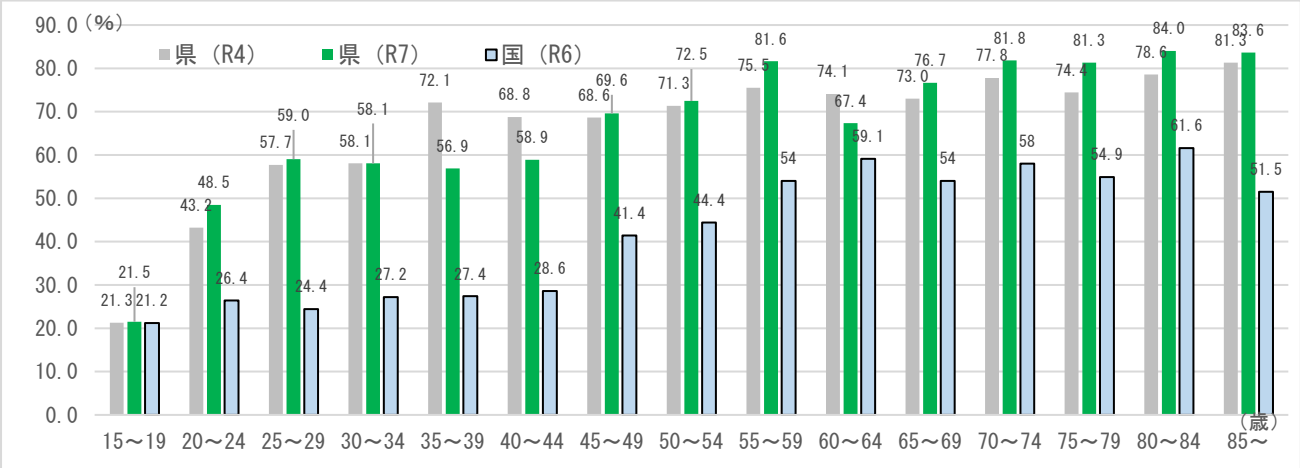
年齢階級（歳）	被調査者数（人）	人数（人）					割合（%）				
		4mm未満	歯周ポケットのある者			対象歯のない者	4mm未満	歯周ポケットのある者			対象歯のない者
			合計	4mm以上6mm未満	6mm以上			合計	4mm以上6mm未満	6mm以上	
15～19	93	73	20	18	2	0	78.5	21.5	19.4	2.2	0.0
20～24	97	50	47	39	8	0	51.5	48.5	40.2	8.2	0.0
25～29	83	34	49	42	7	0	41.0	59.0	50.6	8.4	0.0
30～34	93	39	54	42	12	0	41.9	58.1	45.2	12.9	0.0
35～39	109	47	62	42	20	0	43.1	56.9	38.5	18.3	0.0
40～44	124	51	73	55	18	0	41.1	58.9	44.4	14.5	0.0
45～49	148	45	103	62	41	0	30.4	69.6	41.9	27.7	0.0
50～54	178	49	129	81	48	0	27.5	72.5	45.5	27.0	0.0
55～59	147	27	120	67	53	0	18.4	81.6	45.6	36.1	0.0
60～64	144	47	97	64	33	0	32.6	67.4	44.4	22.9	0.0
65～69	150	35	115	73	42	1	23.3	76.7	48.7	28.0	0.7
70～74	143	26	117	74	43	1	18.2	81.8	51.7	30.1	0.7
75～79	166	31	135	67	68	1	18.7	81.3	40.4	41.0	0.6
80～84	169	27	142	74	68	2	16.0	84.0	43.8	40.2	1.2
85～	110	18	92	44	48	6	16.4	83.6	40.0	43.6	5.5
合計	1,954	599	1,355	844	511	11	30.7	69.3	43.2	26.2	0.6

【図 22】歯周ポケットを有する者の割合



また、前回調査と比較すると、本調査の歯周ポケット保有者の割合は 35～44 歳および 60～64 歳では低かったが、そのほかの年齢群ではやや高い傾向が見られた。全国との比較においては 20 歳以上で著しく高く、若年者ほどその差は大きく開く傾向があった（全国調査とは診査方法が異なる）（図 23）。

【図 23】歯周ポケット（4mm以上）を有する者の割合の前回調査及び全国調査との比較



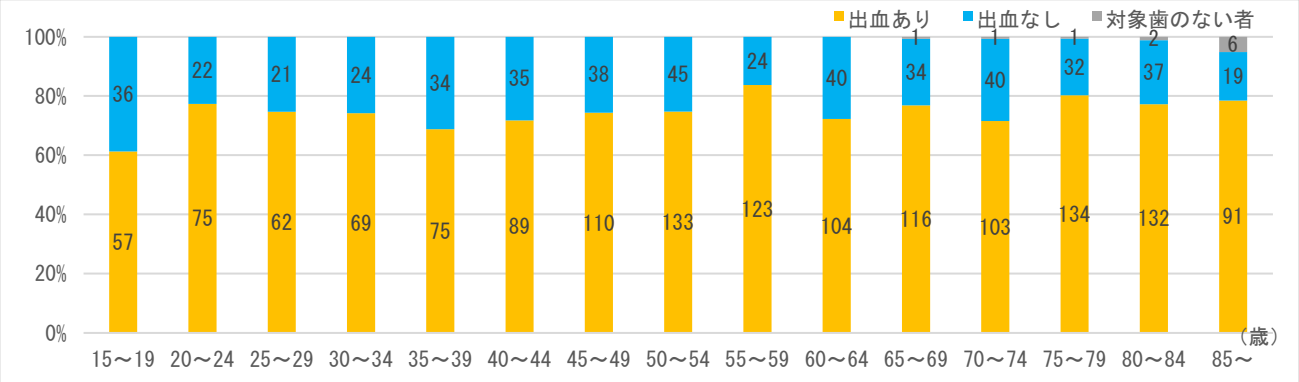
(2) 歯肉出血を有する者の割合

歯肉出血を有する者の割合は全体で 75.4%、全年齢群で 60～70%台で、加齢に伴う増減傾向は見られなかった(表 13、図 24)。

【表 13】歯肉出血を有する者の数及び割合

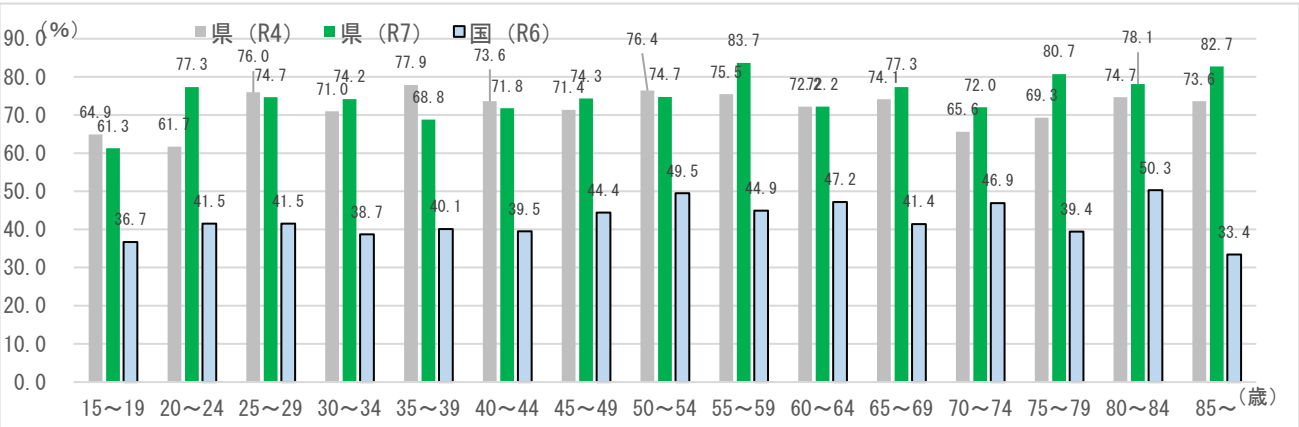
年齢階級（歳）	被調査者数（人）	人数（人）			割合（%）		
		なし	あり	対象歯のない者	なし	あり	対象歯のない者
15～19	93	36	57	0	38.7	61.3	0.0
20～24	97	22	75	0	22.7	77.3	0.0
25～29	83	21	62	0	25.3	74.7	0.0
30～34	93	24	69	0	25.8	74.2	0.0
35～39	109	34	75	0	31.2	68.8	0.0
40～44	124	35	89	0	28.2	71.8	0.0
45～49	148	38	110	0	25.7	74.3	0.0
50～54	178	45	133	0	25.3	74.7	0.0
55～59	147	24	123	0	16.3	83.7	0.0
60～64	144	40	104	0	27.8	72.2	0.0
65～69	150	34	116	1	22.7	77.3	0.7
70～74	143	40	103	1	28.0	72.0	0.7
75～79	166	32	134	1	19.3	80.7	0.6
80～84	169	37	132	2	21.9	78.1	1.2
85～	110	19	91	6	17.3	82.7	5.5
合計	1,954	481	1,473	11	24.6	75.4	0.6

【図 24】歯肉出血を有する者の割合



前回調査との比較ではおおむね本調査のほうが高く、全国との比較ではすべての年齢群で本調査対象者の方が著しく高かった(全国調査とは診査方法方が異なる)(図 25)。

【図 25】歯肉出血を有する者の割合の前回調査及び全国調査との比較



3) 補綴物の状況

補綴物(義歯、ブリッジ、インプラント)のいずれかを有する者は全体で 44.1%であった。種類別では、ブリッジの装着者が 31.3%と最も高く、次いで可撤性義歯が 21.9%、インプラントが 3.1%であった。欠損補綴物の保有率は加齢に伴って高くなり 60 代で 52.9%と半数に達し 80 歳以上では 83.3%になった 。年代による特徴として、40～50 代までは固定式の「ブリッジ」の適用が主体であるが、60 歳代以降から可撤式の「義歯(部分入れ歯、総入れ歯)」の割合が急増した(表 14)。

【表 14】補綴物を有する者の数及び割合

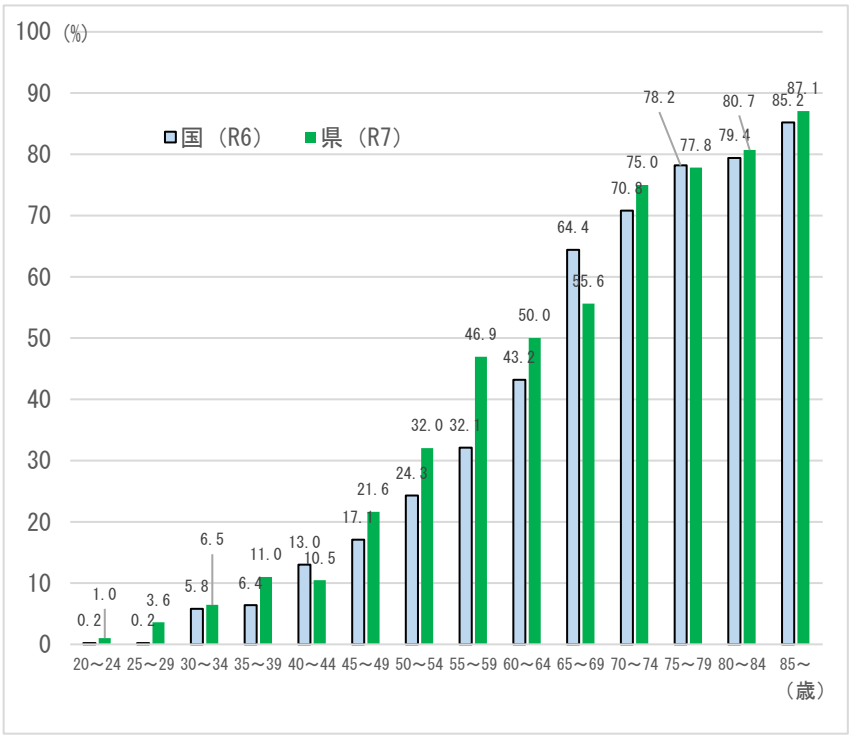
年齢	人数（人）					割合（%）			
	対象者	義歯	ブリッジ	インプラント	いずれかひとつ	義歯	ブリッジ	インプラント	いずれかひとつ
20～29	180	0	4	2	4	0.0	2.2	1.1	2.2
30～39	202	3	14	1	18	1.5	6.9	0.5	8.9
40～49	272	14	35	12	45	5.1	12.9	4.4	16.5
50～59	325	28	100	8	126	8.6	30.8	2.5	38.8
60～69	295	67	116	14	156	22.7	39.3	4.7	52.9
70～79	311	125	179	15	238	40.2	57.6	4.8	76.5
80～	287	173	137	6	239	60.3	47.7	2.1	83.3
合計	1,872	410	585	58	826	21.9	31.3	3.1	44.1

全国値との比較では 45 歳～64 歳では全国平均よりも高い保有率であった(表 15、図 26)。

【表 15】補綴物を有する者の割合の全国調査との比較

年齢階級（歳）	割合（%）	
	国（R6）	県（R7）
20～24	0.2	1.0
25～29	0.2	3.6
30～34	5.8	6.5
35～39	6.4	11.0
40～44	13.0	10.5
45～49	17.1	21.6
50～54	24.3	32.0
55～59	32.1	46.9
60～64	43.2	50.0
65～69	64.4	55.6
70～74	70.8	75.0
75～79	78.2	77.8
80～84	79.4	80.7
85～	85.2	87.1
全体平均	37.2	40.0

【図 26】補綴物を有する者の割合の全国調査との比較



3 他の所見

1) 口腔清掃状態

口腔清掃状態について「良好」、「普通」、「不良」の者の割合は男性がそれぞれ34.2%、51.5%、14.3%。女性がそれぞれ 46.3%、45.2%、8.4%で、女性のほうが「良好」である者の割合が高い傾向であった。また、男性で 15～39歳の若年階級において「不良」である者の割合が高い傾向が認められた(表 16・17、図 27・28)。

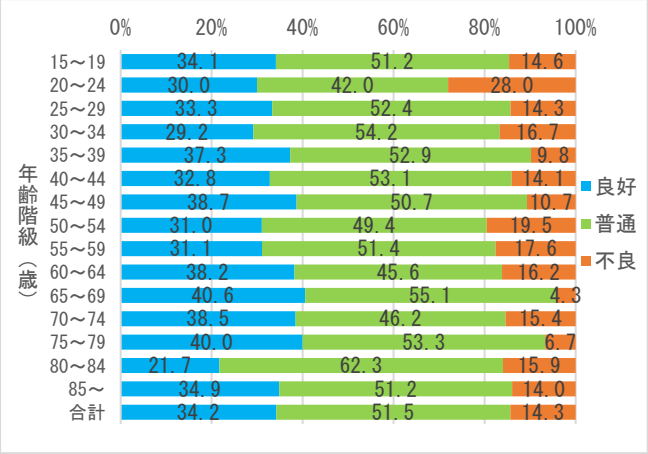
【表 16】口腔清掃状態(人数)

年齢階級(歳)	男性(人)					女性(人)					合計(人)				
	良好	普通	不良	計	欠測	良好	普通	不良	計	欠測	良好	普通	不良	計	欠測
15～19	14	21	6	41	8	11	20	4	35	9	25	41	10	76	17
20～24	15	21	14	50	1	20	24	2	46	0	35	45	16	96	1
25～29	14	22	6	42	3	22	13	2	37	1	36	35	8	79	4
30～34	14	26	8	48	0	24	16	4	44	1	38	42	12	92	1
35～39	19	27	5	51	2	28	21	7	56	0	47	48	12	107	2
40～44	21	34	9	64	0	27	30	2	59	1	48	64	11	123	1
45～49	29	38	8	75	0	32	36	5	73	0	61	74	13	148	0
50～54	27	43	17	87	1	47	35	8	90	0	74	78	25	177	1
55～59	23	38	13	74	2	30	36	4	70	1	53	74	17	144	3
60～64	26	31	11	68	1	43	26	5	74	1	69	57	16	142	2
65～69	28	38	3	69	1	39	39	2	80	1	67	77	5	149	2
70～74	25	30	10	65	3	30	29	9	68	8	55	59	19	133	11
75～79	30	40	5	75	6	35	40	6	81	5	65	80	11	156	11
80～84	15	43	11	69	2	42	41	9	92	8	57	84	20	161	10
85～	15	22	6	43	5	20	33	13	66	2	35	55	19	109	7
合計	315	474	132	921	35	450	439	82	971	38	765	913	214	1,892	73

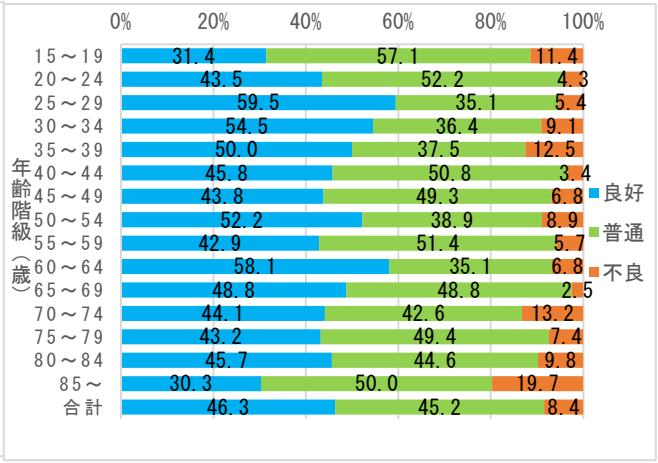
【表 17】口腔清掃状態(割合)

年齢階級(歳)	男性(%)				女性(%)				合計(%)			
	良好	普通	不良	計	良好	普通	不良	計	良好	普通	不良	計
15～19	34.1	51.2	14.6	100.0	31.4	57.1	11.4	100.0	32.9	53.9	13.2	100.0
20～24	30.0	42.0	28.0	100.0	43.5	52.2	4.3	100.0	36.5	46.9	16.7	100.0
25～29	33.3	52.4	14.3	100.0	59.5	35.1	5.4	100.0	45.6	44.3	10.1	100.0
30～34	29.2	54.2	16.7	100.0	54.5	36.4	9.1	100.0	41.3	45.7	13.0	100.0
35～39	37.3	52.9	9.8	100.0	50.0	37.5	12.5	100.0	43.9	44.9	11.2	100.0
40～44	32.8	53.1	14.1	100.0	45.8	50.8	3.4	100.0	39.0	52.0	8.9	100.0
45～49	38.7	50.7	10.7	100.0	43.8	49.3	6.8	100.0	41.2	50.0	8.8	100.0
50～54	31.0	49.4	19.5	100.0	52.2	38.9	8.9	100.0	41.8	44.1	14.1	100.0
55～59	31.1	51.4	17.6	100.0	42.9	51.4	5.7	100.0	36.8	51.4	11.8	100.0
60～64	38.2	45.6	16.2	100.0	58.1	35.1	6.8	100.0	48.6	40.1	11.3	100.0
65～69	40.6	55.1	4.3	100.0	48.8	48.8	2.5	100.0	45.0	51.7	3.4	100.0
70～74	38.5	46.2	15.4	100.0	44.1	42.6	13.2	100.0	41.4	44.4	14.3	100.0
75～79	40.0	53.3	6.7	100.0	43.2	49.4	7.4	100.0	41.7	51.3	7.1	100.0
80～84	21.7	62.3	15.9	100.0	45.7	44.6	9.8	100.0	35.4	52.2	12.4	100.0
85～	34.9	51.2	14.0	100.0	30.3	50.0	19.7	100.0	32.1	50.5	17.4	100.0
合計	34.2	51.5	14.3	100.0	46.3	45.2	8.4	100.0	40.4	48.3	11.3	100.0

【図 27】口腔清掃状態（男性）



【図 28】口腔清掃状態【女性】



2) 歯石沈着

歯石沈着が「多い」あるいは「中等度」の者は、男性 38.4%、女性 25.1%で、男性の歯石沈着量が多い傾向であった。年齢別では一定の傾向は認められなかった（表 18・19、図 29・30）。

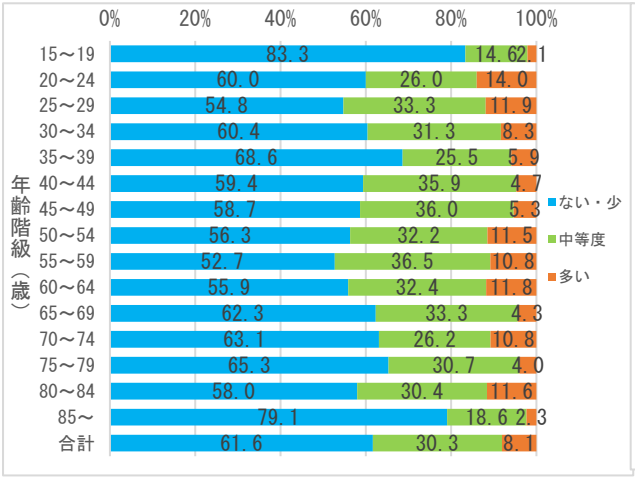
【表 18】歯石沈着（人数）

年齢階級（歳）	男性（人）					女性（人）					合計（人）				
	ない・少ない	中等度	多い	計	欠測	ない・少ない	中等度	多い	計	欠測	ない・少ない	中等度	多い	計	欠測
15～19	40	7	1	48	1	35	8	1	44	0	75	15	2	92	1
20～24	30	13	7	50	1	38	8	0	46	0	68	21	7	96	1
25～29	23	14	5	42	3	30	6	1	37	1	53	20	6	79	4
30～34	29	15	4	48	0	38	6	0	44	1	67	21	4	92	1
35～39	35	13	3	51	2	45	8	3	56	0	80	21	6	107	2
40～44	38	23	3	64	0	43	15	1	59	1	81	38	4	123	1
45～49	44	27	4	75	0	51	19	3	73	0	95	46	7	148	0
50～54	49	28	10	87	1	66	18	6	90	0	115	46	16	177	1
55～59	39	27	8	74	2	46	22	2	70	1	85	49	10	144	3
60～64	38	22	8	68	1	57	16	1	74	1	95	38	9	142	2
65～69	43	23	3	69	1	63	17	0	80	1	106	40	3	149	2
70～74	41	17	7	65	3	45	19	4	68	8	86	36	11	133	11
75～79	49	23	3	75	6	65	14	2	81	5	114	37	5	156	11
80～84	40	21	8	69	2	67	24	1	92	8	107	45	9	161	10
85～	34	8	1	43	5	44	18	2	64	4	78	26	3	107	9
合計	572	281	75	928	28	733	218	27	978	31	1305	499	102	1906	59

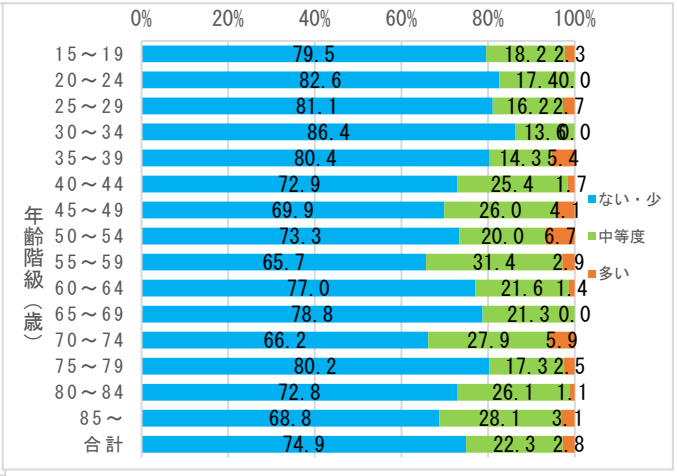
【表 19】歯石沈着（割合）

年齢階級（歳）	男性（%）				女性（%）				合計（%）			
	ない・少ない	中等度	多い	計	ない・少ない	中等度	多い	計	ない・少ない	中等度	多い	計
15～19	83.3	14.6	2.1	100.0	79.5	18.2	2.3	100.0	81.5	16.3	2.2	100.0
20～24	60.0	26.0	14.0	100.0	82.6	17.4	0.0	100.0	70.8	21.9	7.3	100.0
25～29	54.8	33.3	11.9	100.0	81.1	16.2	2.7	100.0	67.1	25.3	7.6	100.0
30～34	60.4	31.3	8.3	100.0	86.4	13.6	0.0	100.0	72.8	22.8	4.3	100.0
35～39	68.6	25.5	5.9	100.0	80.4	14.3	5.4	100.0	74.8	19.6	5.6	100.0
40～44	59.4	35.9	4.7	100.0	72.9	25.4	1.7	100.0	65.9	30.9	3.3	100.0
45～49	58.7	36.0	5.3	100.0	69.9	26.0	4.1	100.0	64.2	31.1	4.7	100.0
50～54	56.3	32.2	11.5	100.0	73.3	20.0	6.7	100.0	65.0	26.0	9.0	100.0
55～59	52.7	36.5	10.8	100.0	65.7	31.4	2.9	100.0	59.0	34.0	6.9	100.0
60～64	55.9	32.4	11.8	100.0	77.0	21.6	1.4	100.0	66.9	26.8	6.3	100.0
65～69	62.3	33.3	4.3	100.0	78.8	21.3	0.0	100.0	71.1	26.8	2.0	100.0
70～74	63.1	26.2	10.8	100.0	66.2	27.9	5.9	100.0	64.7	27.1	8.3	100.0
75～79	65.3	30.7	4.0	100.0	80.2	17.3	2.5	100.0	73.1	23.7	3.2	100.0
80～84	58.0	30.4	11.6	100.0	72.8	26.1	1.1	100.0	66.5	28.0	5.6	100.0
85～	79.1	18.6	2.3	100.0	68.8	28.1	3.1	100.0	72.9	24.3	2.8	100.0
合計	61.6	30.3	8.1	100.0	74.9	22.3	2.8	100.0	68.5	26.2	5.4	100.0

【図 29】歯石沈着（男性）



【図 30】歯石沈着（女性）



3) その他

その他の所見は全体では 103 件で、男性 5.2%、女性 6.4%に記載があったが、年齢による一定の傾向は認められなかった（表 20）。具体的な記載内容は「顎関節症」に起因すると考えられるクリック音や疼痛の訴えが 10 件と最も多く、その他、粘膜病変や義歯性潰瘍など部位を指定した具体的な症状が多かった。

【表 20】その他の状況

年齢階級（歳）	人数（人）												割合（%）								
	男性				女性				合計				男性			女性			合計		
	なし	あり	計	欠測	なし	あり	計	欠測	なし	あり	計	欠測	なし	あり	計	なし	あり	計	なし	あり	計
15～19	40	4	44	5	29	8	37	7	69	12	81	12	90.9	9.1	100.0	78.4	21.6	100.0	85.2	14.8	100.0
20～24	43	1	44	7	39	2	41	5	82	3	85	12	97.7	2.3	100.0	95.1	4.9	100.0	96.5	3.5	100.0
25～29	39	2	41	4	32	3	35	3	71	5	76	7	95.1	4.9	100.0	91.4	8.6	100.0	93.4	6.6	100.0
30～34	44	2	46	2	40	2	42	3	84	4	88	5	95.7	4.3	100.0	95.2	4.8	100.0	95.5	4.5	100.0
35～39	46	2	48	5	47	3	50	6	93	5	98	11	95.8	4.2	100.0	94.0	6.0	100.0	94.9	5.1	100.0
40～44	58	4	62	2	53	3	56	4	111	7	118	6	93.5	6.5	100.0	94.6	5.4	100.0	94.1	5.9	100.0
45～49	68	1	69	6	69	0	69	4	137	1	138	10	98.6	1.4	100.0	100.0	0.0	100.0	99.3	0.7	100.0
50～54	75	5	80	8	72	10	82	8	147	15	162	16	93.8	6.3	100.0	87.8	12.2	100.0	90.7	9.3	100.0
55～59	67	4	71	5	62	4	66	5	129	8	137	10	94.4	5.6	100.0	93.9	6.1	100.0	94.2	5.8	100.0
60～64	62	2	64	5	63	6	69	6	125	8	133	11	96.9	3.1	100.0	91.3	8.7	100.0	94.0	6.0	100.0
65～69	58	4	62	8	71	3	74	7	129	7	136	15	93.5	6.5	100.0	95.9	4.1	100.0	94.9	5.1	100.0
70～74	58	4	62	6	59	4	63	13	117	8	125	19	93.5	6.5	100.0	93.7	6.3	100.0	93.6	6.4	100.0
75～79	68	2	70	11	77	2	79	7	145	4	149	18	97.1	2.9	100.0	97.5	2.5	100.0	97.3	2.7	100.0
80～84	61	5	66	5	80	4	84	16	141	9	150	21	92.4	7.6	100.0	95.2	4.8	100.0	94.0	6.0	100.0
85～	37	3	40	8	56	4	60	8	93	7	100	16	92.5	7.5	100.0	93.3	6.7	100.0	93.0	7.0	100.0
合計	824	45	869	87	849	58	907	102	1673	103	1776	189	94.8	5.2	100.0	93.6	6.4	100.0	94.2	5.8	100.0

4 質問紙票調査

1) 歯や口の状態で気になるところ(表 21・22、図 31)

○「問 1　歯や口の状態について気になるところはありますか。」

「ない」と回答したものは全体で 48.3%、年齢別でみると最高が 15～19 歳の 71.0%、最低が 75～79 歳の 42.5%で、加齢による一定の傾向は認められなかった。

「歯が痛い、しみる」と回答したものは 20～29 歳で 28.3%とピークがみられ、加齢に伴い大きく減少した。

「歯ぐきが痛い、はれている、出血がある」と回答したものは 50～59 歳で 18.5%とピークが見られ、加齢とともにゆるやかな減少傾向を示した。

「噛めないものがある」と回答したものは若年者では非常に少ない傾向が見られ、加齢に伴って増加し 80 歳以上で 20.2%と最も高くなった。

「飲み込みにくい、むせやすい」と回答した者は、総数は 「噛めないものがある」と回答したものほどの数ではないが、ほぼ同様の傾向を示し、ピークは 70～79 歳で 7.1%と最も高くなった。

「味が分かりにくい」と回答した者はほとんどなく、最も多い 80 歳以上でも 2.8%と低かった。

「口がかわく」と回答した者は 50～59 歳、60～69 歳、70～79 歳および 80 歳～でそれぞれ 11.1%、10.5%、13.5%および 16.7%といずれも 10%を超え、おおむね加齢に伴い増加した。

「口臭がある」と回答した者は 30～69 歳までの年齢群で 10%を超え、若年者や高齢者よりも中間年齢層で高くなる傾向が見られた。

「舌が動かない、滑舌が悪くなった」は 80 歳以上を除く全ての年齢群で 5%未満にとどまり、加齢による一定の傾向はみられなかった。

「その他」の内容としては、「歯石」、「歯並び」、「着色」や義歯に関する訴えが散見された

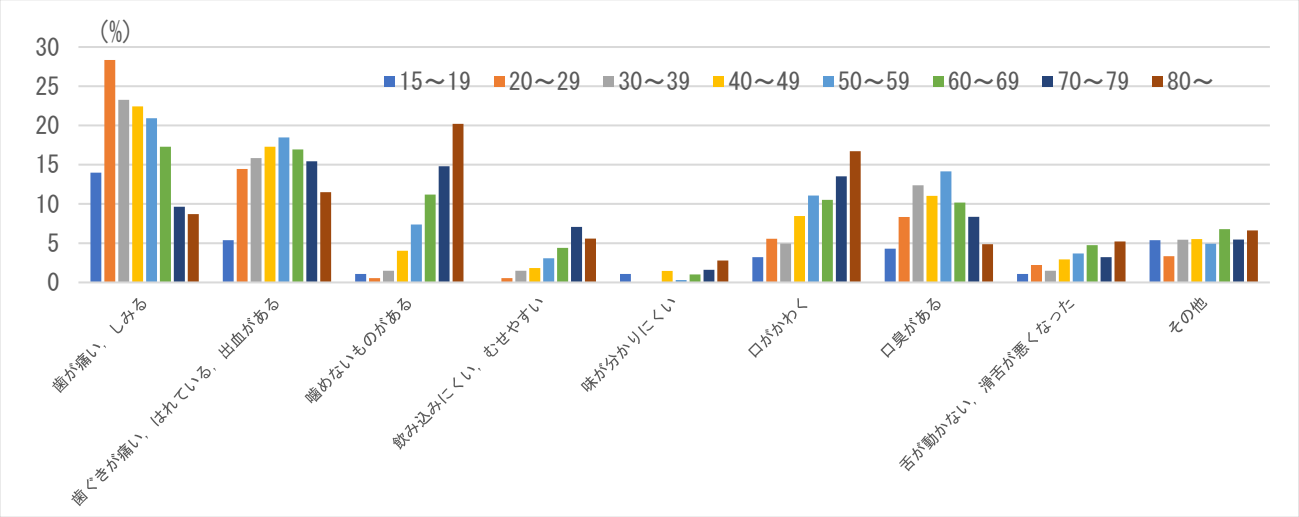
【表 21】歯や口の状態で気になるところ(人数)

年齢階級(歳)	被調査者(人)	ない(人)	あり(人)								
			歯が痛い,しみる	歯ぐきが痛い,はれている,出血がある	噛めないものがある	飲み込みにくい,むせやすい	味が分かりにくい	口がかわく	口臭がある	舌が動かない,滑舌が悪くなった	その他
15～19	93	66	13	5	1	0	1	3	4	1	5
20～24	97	57	29	12	0	1	0	4	8	1	2
25～29	83	43	22	14	1	0	0	6	7	3	4
30～34	93	44	22	16	0	2	0	2	13	1	6
35～39	109	56	25	16	3	1	0	8	12	2	5
40～44	124	59	30	18	4	2	2	10	13	2	11
45～49	148	75	31	29	7	3	2	13	17	6	4
50～54	178	79	36	33	8	7	1	20	24	6	9
55～59	147	71	32	27	16	3	0	16	22	6	7
60～64	144	62	23	23	17	5	1	13	11	6	17
65～69	151	65	28	27	16	8	2	18	19	8	3
70～74	144	63	17	26	18	9	4	19	16	3	12
75～79	167	71	13	22	28	13	1	23	10	7	5
80～84	171	81	14	20	32	7	6	31	8	7	9
85～	116	57	11	13	26	9	2	17	6	8	10
合計	1965	949	346	301	177	70	22	203	190	67	109

【表 22】歯や口の状態で気になるところ（割合）

年齢階級（歳）	ない（%）	あり（%）								
		歯が痛い，しみる	歯ぐきが痛い，はれている，出血がある	噛めないものがある	飲み込みにくい，むせやすい	味が分かりにくい	口がかわく	口臭がある	舌が動かない，滑舌が悪くなった	その他
15～19	71.0	14.0	5.4	1.1	0.0	1.1	3.2	4.3	1.1	5.4
20～24	58.8	29.9	12.4	0.0	1.0	0.0	4.1	8.2	1.0	2.1
25～29	51.8	26.5	16.9	1.2	0.0	0.0	7.2	8.4	3.6	4.8
30～34	47.3	23.7	17.2	0.0	2.2	0.0	2.2	14.0	1.1	6.5
35～39	51.4	22.9	14.7	2.8	0.9	0.0	7.3	11.0	1.8	4.6
40～44	47.6	24.2	14.5	3.2	1.6	1.6	8.1	10.5	1.6	8.9
45～49	50.7	20.9	19.6	4.7	2.0	1.4	8.8	11.5	4.1	2.7
50～54	44.4	20.2	18.5	4.5	3.9	0.6	11.2	13.5	3.4	5.1
55～59	48.3	21.8	18.4	10.9	2.0	0.0	10.9	15.0	4.1	4.8
60～64	43.1	16.0	16.0	11.8	3.5	0.7	9.0	7.6	4.2	11.8
65～69	43.0	18.5	17.9	10.6	5.3	1.3	11.9	12.6	5.3	2.0
70～74	43.8	11.8	18.1	12.5	6.3	2.8	13.2	11.1	2.1	8.3
75～79	42.5	7.8	13.2	16.8	7.8	0.6	13.8	6.0	4.2	3.0
80～84	47.4	8.2	11.7	18.7	4.1	3.5	18.1	4.7	4.1	5.3
85～	49.1	9.5	11.2	22.4	7.8	1.7	14.7	5.2	6.9	8.6
合計	48.3	17.6	15.3	9.0	3.6	1.1	10.3	9.7	3.4	5.5

【図 31】歯や口の状態で気になるところ（割合）



2）歯をみがく頻度（表 23、図 32･33）

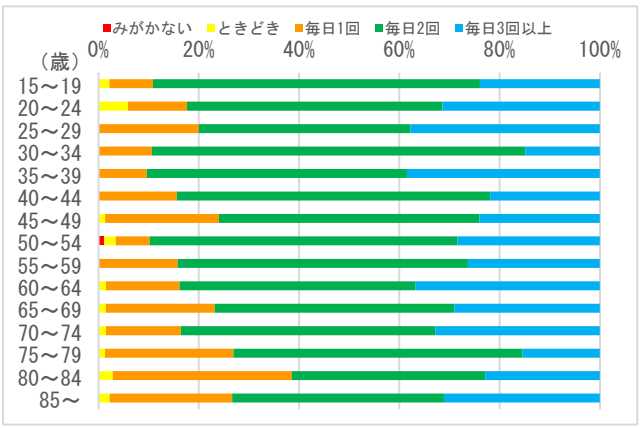
○「問 2　歯を磨く頻度はどれくらいですか。」

毎日 2 回以上磨く者の割合は男性 80.9%、女性 95.3%と女性の方が高く、さらに女性は「毎日 3 回以上」と答えた者の割合が 54.8%であった。また、女性は全ての年齢群で毎日 2 回以上磨く者の割合が 80%を超えたが、男性では 45～49 歳、65～69 歳、75 歳以上の者は 80%を下回った。

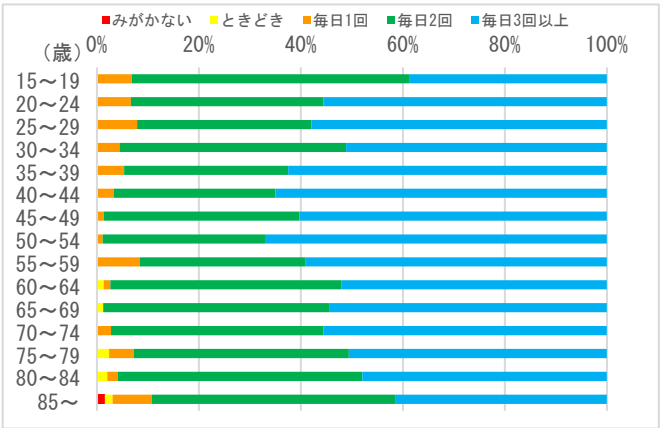
【表 23】歯をみがく頻度（割合）

年齢階級（歳）	男性（%）					女性（%）					合計（%）				
	毎日1回	毎日2回	毎日3回以上	ときどき	みがかない	毎日1回	毎日2回	毎日3回以上	ときどき	みがかない	毎日1回	毎日2回	毎日3回以上	ときどき	みがかない
15～19	8.7	65.2	23.9	2.2	0.0	6.8	54.5	38.6	0.0	0.0	7.8	60.0	31.1	1.1	0.0
20～24	11.8	51.0	31.4	5.9	0.0	6.7	37.8	55.6	0.0	0.0	9.4	44.8	42.7	3.1	0.0
25～29	20.0	42.2	37.8	0.0	0.0	7.9	34.2	57.9	0.0	0.0	14.5	38.6	47.0	0.0	0.0
30～34	10.6	74.5	14.9	0.0	0.0	4.4	44.4	51.1	0.0	0.0	7.6	59.8	32.6	0.0	0.0
35～39	9.6	51.9	38.5	0.0	0.0	5.4	32.1	62.5	0.0	0.0	7.4	41.7	50.9	0.0	0.0
40～44	15.6	62.5	21.9	0.0	0.0	3.3	31.7	65.0	0.0	0.0	9.7	47.6	42.7	0.0	0.0
45～49	22.7	52.0	24.0	1.3	0.0	1.4	38.4	60.3	0.0	0.0	12.2	45.3	41.9	0.7	0.0
50～54	6.8	61.4	28.4	2.3	1.1	1.1	31.8	67.0	0.0	0.0	4.0	46.6	47.7	1.1	0.6
55～59	15.8	57.9	26.3	0.0	0.0	8.5	32.4	59.2	0.0	0.0	12.2	45.6	42.2	0.0	0.0
60～64	14.7	47.1	36.8	1.5	0.0	1.3	45.3	52.0	1.3	0.0	7.7	46.2	44.8	1.4	0.0
65～69	21.7	47.8	29.0	1.4	0.0	0.0	44.4	54.3	1.2	0.0	10.0	46.0	42.7	1.3	0.0
70～74	14.9	50.7	32.8	1.5	0.0	2.8	41.7	55.6	0.0	0.0	8.6	46.0	44.6	0.7	0.0
75～79	25.6	57.7	15.4	1.3	0.0	4.8	42.2	50.6	2.4	0.0	14.9	49.7	33.5	1.9	0.0
80～84	35.7	38.6	22.9	2.9	0.0	2.0	48.0	48.0	2.0	0.0	16.1	44.0	37.5	2.4	0.0
85～	24.4	42.2	31.1	2.2	0.0	7.7	47.7	41.5	1.5	1.5	14.5	45.5	37.3	1.8	0.9
合計	17.5	53.6	27.3	1.5	0.1	3.8	40.5	54.8	0.7	0.1	10.5	46.9	41.4	1.1	0.1

【図 32】歯をみがく頻度の割合（男性）



【図 33】歯をみがく頻度の割合（女性）



3）歯みがき以外の口腔内清掃（表 24、図 34・35・36）

○「問 3 （歯ブラシによる歯みがきに加えて）以下に示す清掃を行っていますか。」

歯ブラシ以外の補助清掃器具を使用している（デンタルフロスや歯間ブラシ/舌の清掃/その他いずれか一つでも実施していると答えた）者の割合は男女でそれぞれ 69.5%、 81.1%と女性の方が高く、15～19 歳を除く全ての年齢群において女性の割合の方が高かった。年代別では男女ともに 40～49 歳あるいは 60～69 歳の二峰性のピークで、15～19 歳の若年者が最も低かった。

歯間ブラシやフロス使用者の割合は男女それぞれで 59.1%および 73.3%で、年齢群別にみて補助清掃器具

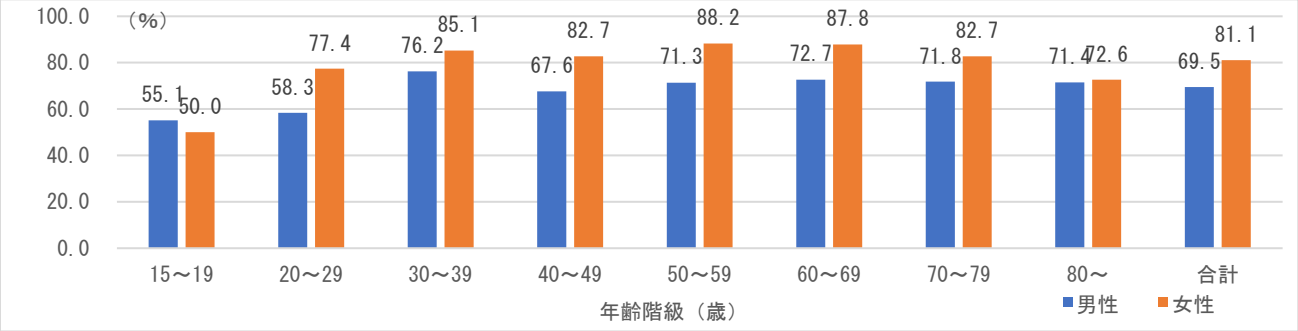
全体の使用状況と同様に 15～19 歳の者で最も低い傾向を示した。

舌清掃はデンタルフロスや歯間ブラシの使用者と比較するとその割合は低く、男女それぞれ 15.5%、21.6%だった。15～19 歳を除いて女性の割合の方が高かったが、男性は 15～19 歳にピークが見られ、女性の 15～19 歳を除いて使用者の割合が大きいのはデンタルフロスや歯間ブラシよりも低い年齢層であった。

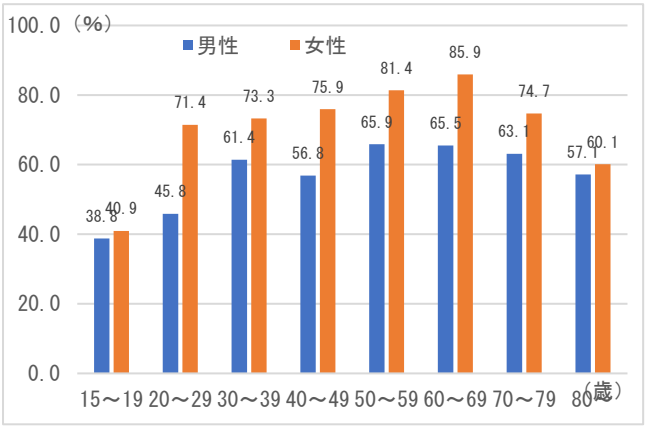
【表 24】歯ブラシ以外の口腔内清掃の状況（割合）※複数回答

年齢階級（歳）	割合（%）											
	デンタルフロスや歯間ブラシ			舌の清掃			その他			おこなっていない		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
15～19	38.8	40.9	39.8	26.5	9.1	18.3	0.0	2.3	1.1	44.9	50.0	47.3
20～29	45.8	71.4	57.8	25.0	33.3	28.9	3.1	2.4	2.8	41.7	22.6	32.8
30～39	61.4	73.3	67.3	20.8	27.7	24.3	5.0	2.0	3.5	23.8	14.9	19.3
40～49	56.8	75.9	66.2	14.4	21.8	18.0	2.9	3.0	2.9	32.4	17.3	25.0
50～59	65.9	81.4	73.5	15.2	23.0	19.1	1.2	3.7	2.5	28.7	11.8	20.3
60～69	65.5	85.9	76.3	15.8	17.9	16.9	0.7	0.0	0.3	27.3	12.2	19.3
70～79	63.1	74.7	69.1	8.1	22.2	15.4	2.7	1.2	1.9	28.2	17.3	22.5
80～	57.1	60.1	58.9	9.2	16.7	13.6	3.4	3.0	3.1	28.6	27.4	27.9
合計	59.1	73.3	66.4	15.5	21.6	18.6	2.4	2.2	2.3	30.5	18.9	24.6

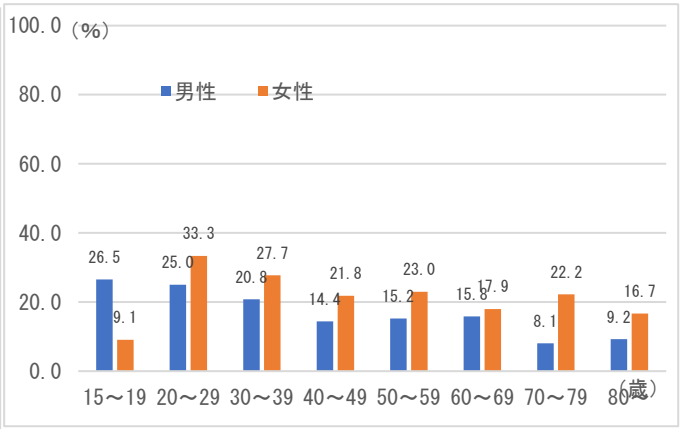
【図 34】歯ブラシ以外の口腔内清掃を行っている者の割合（総数）



【図 35】歯間部清掃を行っている者の割合



【図 36】舌清掃を行っている者の割合



4）過去1年間の歯科検診受診状況とその種類（表 25・26・27、図 37・38・39・40）

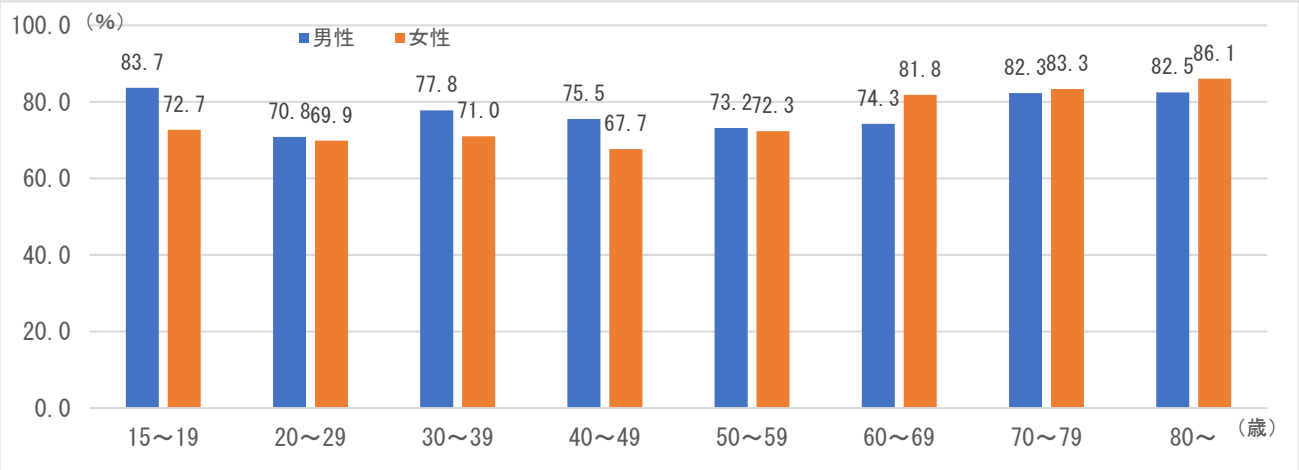
○「問 4 ① あなたはこの1年間に歯科検診を受けましたか。」

この 1 年間で歯科検診を「受けた」と答えた者の割合は男女それぞれ 77.0%、76.9%で女性の方がやや高かったがその差は小さく、年齢によって男性の方が高かったため、性差はほぼないと考えられた。また、15～19歳の対象者は学校歯科健診を含めて回答している可能性があるため除くと、男女でそれぞれ 60～64 歳、 45～49 歳が最も低く（それぞれ 64.2%および 63.0%）、85 歳以上が最も高かった（それぞれ、90.9%%および 86.6%）。

【表 25】この１年間に歯科検診を受診した者

年齢階級（歳）	対象者（人）			「受けた」と答えた者（人）			無回答者（人）			割合（%）		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
15～19	49	44	93	41	32	73	0	0	0	83.7	72.7	78.5
20～24	51	46	97	34	32	66	0	1	1	66.7	71.1	68.8
25～29	45	38	83	34	26	60	0	0	0	75.6	68.4	72.3
30～34	48	45	93	35	31	66	1	1	2	74.5	70.5	72.5
35～39	53	56	109	42	40	82	1	0	1	80.8	71.4	75.9
40～44	64	60	124	51	44	95	0	0	0	79.7	73.3	76.6
45～49	75	73	148	54	46	100	0	0	0	72.0	63.0	67.6
50～54	88	90	178	65	66	131	0	2	2	73.9	75.0	74.4
55～59	76	71	147	55	49	104	0	0	0	72.4	69.0	70.7
60～64	69	75	144	43	60	103	2	0	2	64.2	80.0	72.5
65～69	70	81	151	58	66	124	1	2	3	84.1	83.5	83.8
70～74	68	76	144	54	60	114	0	2	2	79.4	81.1	80.3
75～79	81	86	167	67	70	137	2	4	6	84.8	85.4	85.1
80～84	71	100	171	54	84	138	1	2	3	77.1	85.7	82.1
85～	48	68	116	40	58	98	4	1	5	90.9	86.6	88.3
合計	956	1,009	1,965	727	764	1,491	12	15	27	77.0	76.9	76.9

【図 37】この１年間に歯科検診を受診した者（割合）

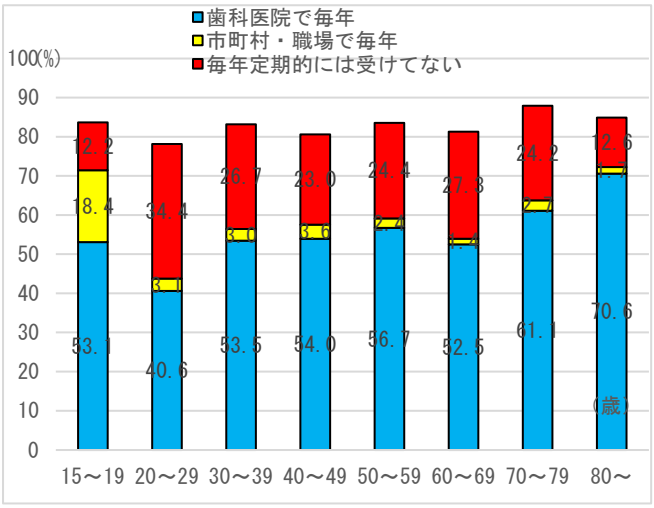


また、受けている歯科定期検診（回答枝：歯科医院で毎年／市町村・職場で毎年／毎年定期的には受けてない）は男女および全ての年代で「歯科医院で」と回答した者が多く、市町村・職場で受けていると回答した者は、15～19 歳で男女それぞれ 18.4%、18.2%であったが、他の年代ではほとんどで数%、年代によっては 1%未満にとどまった。

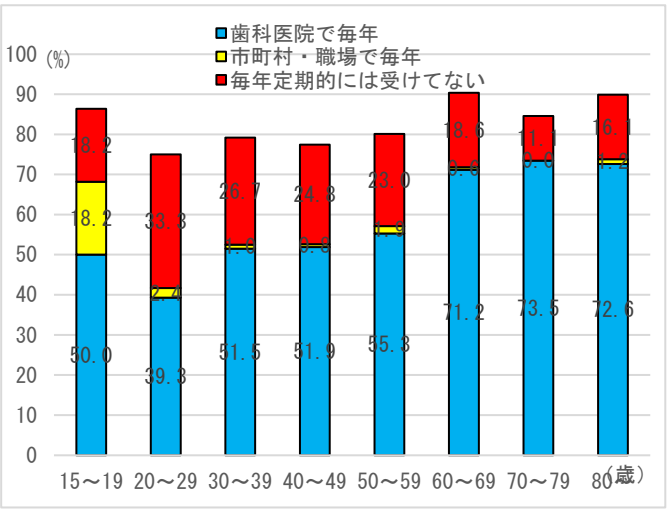
【表 26】受けている歯科検診の状況とその種類

年齢階級（歳）	人数（人）									割合（%）								
	歯科医院で毎年			市町村・職場で毎年			毎年定期的には受けてない			歯科医院で毎年			市町村・職場で毎年			毎年定期的には受けてない		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
15～19	26	22	48	9	8	17	6	8	14	53.1	50.0	51.6	18.4	18.2	18.3	12.2	18.2	15.1
20～29	39	33	72	3	2	5	33	28	61	40.6	39.3	40.0	3.1	2.4	2.8	34.4	33.3	33.9
30～39	54	52	106	3	1	4	27	27	54	53.5	51.5	52.5	3.0	1.0	2.0	26.7	26.7	26.7
40～49	75	69	144	5	1	6	32	33	65	54.0	51.9	52.9	3.6	0.8	2.2	23.0	24.8	23.9
50～59	93	89	182	4	3	7	40	37	77	56.7	55.3	56.0	2.4	1.9	2.2	24.4	23.0	23.7
60～69	73	111	184	2	1	3	38	29	67	52.5	71.2	62.4	1.4	0.6	1.0	27.3	18.6	22.7
70～79	91	119	210	4	0	4	36	18	54	61.1	73.5	67.5	2.7	0.0	1.3	24.2	11.1	17.4
80～	84	122	206	2	2	4	15	27	42	70.6	72.6	71.8	1.7	1.2	1.4	12.6	16.1	14.6
合計	535	617	1152	32	18	50	227	207	434	56.0	61.1	58.6	3.3	1.8	2.5	23.7	20.5	22.1

【図 38】受けている歯科検診の状況とその種類（男性）



【図 39】受けている歯科検診の状況とその種類（女性）

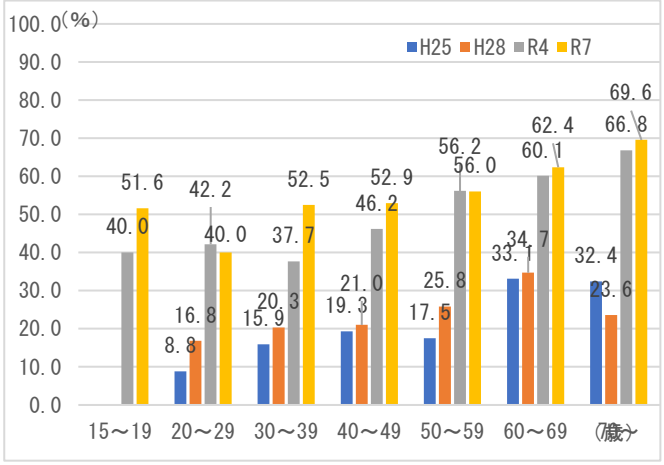


定期的歯科検診を歯科医院で受けている者の年次推移を平成 25、28 および令和 4 年度の本県の実態調査の結果と経年比較すると、15～19 歳および 50～59 歳を除いてすべての年代で最も高い割合であった。

【表 27】歯科医院で定期的歯科検診を受診する者の割合年次推移

年齢階級（歳）	割合（%）			
	平成 25 年	平成 28 年	令和 4 年	令和 7 年
15～19	—	—	40.0	51.6
20～29	8.8	16.8	42.2	40.0
30～39	15.9	20.3	37.7	52.5
40～49	19.3	21.0	46.2	52.9
50～59	17.5	25.8	56.2	56.0
60～69	33.1	34.7	60.1	62.4
70～	32.4	23.6	66.8	69.6
合計	23.4	25.1	54.5	58.6

【図 40】歯科医院で定期的歯科健診を受診する者の割合年次推移



5) 喫煙習慣（表 28・29、図 41・42）

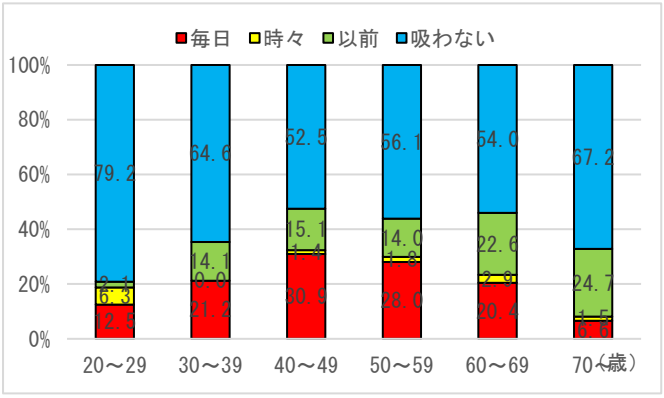
○「問 5　たばこを吸いますか。」

喫煙習慣があるもの（「毎日吸う/時々吸う」と回答した者の割合）は男女でそれぞれ 20.8%、5.7%であった。年齢別にみると、男性では 30%を超えたのは 40～49 歳のみで 32.4%であった。女性は 10%を超えたのは同じく 50～59 歳で 10.7%であった。また、男性では 60 歳以上の全ての年代が「以前吸っていた」ものが 20%を超えており、健康志向により禁煙を実施したことがうかがえた。また、調査年代は異なるが、全国値（令和 5 年度国民健康栄養調査）は男女それぞれ 25.6%、6.9%で本県の方がやや小さいが、20～29 歳女性では本県の方が喫煙率は高かった。

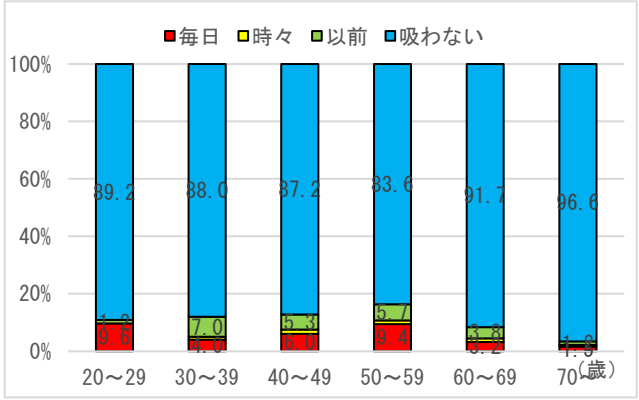
【表 28】喫煙習慣のある者の割合

年齢階級（歳）	男性（%）				女性（%）				合計（%）			
	毎日	時々	以前	吸わない	毎日	時々	以前	吸わない	毎日	時々	以前	吸わない
20～29	12.5	6.3	2.1	79.2	9.6	0.0	1.2	89.2	11.2	3.4	1.7	83.8
30～39	21.2	0.0	14.1	64.6	4.0	1.0	7.0	88.0	12.6	0.5	10.6	76.4
40～49	30.9	1.4	15.1	52.5	6.0	1.5	5.3	87.2	18.8	1.5	10.3	69.5
50～59	28.0	1.8	14.0	56.1	9.4	1.3	5.7	83.6	18.9	1.5	9.9	69.7
60～69	20.4	2.9	22.6	54.0	3.2	1.3	3.8	91.7	11.3	2.0	12.6	74.1
70～	6.6	1.5	24.7	67.2	1.5	0.6	1.2	96.6	3.8	1.0	11.7	83.5
合計	18.7	2.1	17.3	61.9	4.7	0.9	3.6	90.8	11.5	1.5	10.2	76.8

【図 41】喫煙習慣のある者の割合（男性）



【図 42】喫煙習慣のある者の割合（女性）



【表 29】喫煙習慣のある者の割合の全国との比較

年齢階級（歳）	国：R5（%）		県：R7（%）	
	男性	女性	男性	女性
20～29	20.6	5.2	18.8	9.6
30～39	29.9	8.7	21.2	5.0
40～49	33.4	10.1	32.4	7.5
50～59	31.5	11.7	29.9	10.7
60～69	28.5	7.1	23.4	4.5
70～	16.2	2.3	8.1	2.2
合計	25.6	6.9	20.8	5.7

6) 現在治療を受けている病気（表 30、図 43・44）

○「問6　現在治療を受けている病気があれば教えてください。」

「治療は受けていない」と回答した者は男女それぞれ 44.1%および 37.4%であった。年齢別に見ると男女ともに 15～19 歳で最も高くそれぞれ 86.7%および 68.0%で加齢に伴い減少傾向を示した。

高血圧は、男女それぞれが 24.1%および 18.5%で「現在治療を受けている病気」としては最も高く、男女ともに 50 歳代以降で加齢とともに増加傾向を示した。

糖尿病は、男女それぞれが 8.0%および 5.3%で加齢に伴い罹患率は増加し、30～39 歳を除き全ての年代で男性の方が高かった。

脳卒中・脳梗塞、心臓病、脂質異常症、がん、肺の病気で通院している者はそれぞれ 1.2%、4.0%、7.0%、1.5%および 1.2%といずれも低かった。

骨粗鬆症、腰・膝関節痛（関節リウマチ）で通院している者は男性がそれぞれ 0.4%、3.1%、女性がそれぞれ 7.8%、4.1%と女性の方が多かった。これらも加齢に伴い増加する傾向が見られた。

その他の疾患としては、眼科、甲状腺、痛風、アトピー、うつなどといった回答があった。

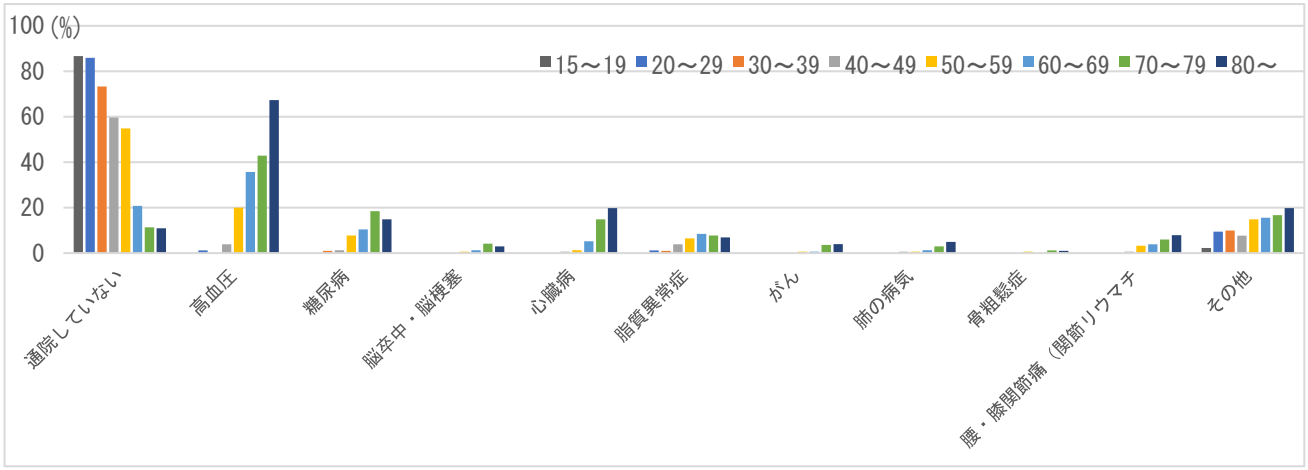
【表 30】現在治療を受けている病気の割合

年齢階級（歳）	通院していない			高血圧			糖尿病			脳卒中・脳梗塞		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
15～19	86.7	68.0	76.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29	85.9	64.0	74.1	1.2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39	73.3	57.0	64.7	0.0	0.9	0.5	1.0	1.8	1.4	0.0	0.0	0.0
40～49	59.6	46.2	52.6	3.8	1.2	2.4	1.3	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
50～59	54.8	46.4	50.6	20.0	18.3	19.2	7.7	2.6	5.2	0.6	1.3	1.0
60～69	20.8	26.4	23.8	35.7	20.9	27.7	10.4	6.0	8.0	1.3	0.0	0.6
70～79	11.3	18.3	15.1	42.9	28.9	35.3	18.5	9.6	13.7	4.2	1.5	2.7
80～	10.9	13.0	12.1	67.3	54.8	59.9	14.9	15.8	15.4	3.0	4.1	3.6
合計	44.1	37.4	40.5	24.1	18.5	21.1	8.0	5.3	6.5	1.3	1.0	1.2

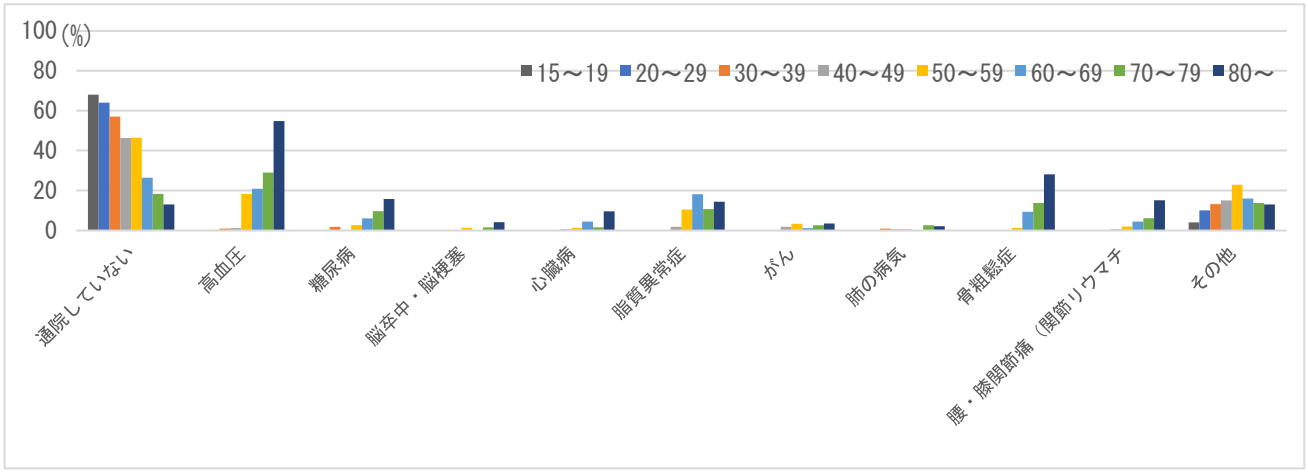
年齢階級（歳）	心臓病			脂質異常症			がん			肺の病気		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
15～19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.5
40～49	0.6	0.6	0.6	3.8	1.7	2.7	0.0	1.7	0.9	0.6	0.6	0.6
50～59	1.3	1.3	1.3	6.5	10.5	8.4	0.6	3.3	1.9	0.6	0.7	0.6
60～69	5.2	4.4	4.8	8.4	18.1	13.7	0.6	1.1	0.9	1.3	0.0	0.6
70～79	14.9	1.5	7.7	7.7	10.7	9.3	3.6	2.5	3.0	3.0	2.5	2.7
80～	19.8	9.6	13.8	6.9	14.4	11.3	4.0	3.4	3.6	5.0	2.1	3.2
合計	5.8	2.5	4.0	5.3	8.4	7.0	1.2	1.8	1.5	1.5	1.0	1.2

年齢階級（歳）	骨粗鬆症			腰・膝関節痛（関節リウマチ）			その他			無回答		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
15～20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	4.0	3.2	20.0	16.0	17.9
20～30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.4	10.0	9.7	15.3	10.0	12.4
30～40	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.9	13.2	11.6	14.9	17.5	16.3
40～50	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	0.6	7.7	15.0	11.6	14.7	11.6	13.1
50～60	0.6	1.3	1.0	3.2	2.0	2.6	14.8	22.9	18.8	9.7	11.8	10.7
60～70	0.0	9.3	5.1	3.9	4.4	4.2	15.6	15.9	15.8	7.8	7.7	7.7
70～80	1.2	13.7	7.9	6.0	6.1	6.0	16.7	13.7	15.1	4.2	6.6	5.5
80～	1.0	28.1	17.0	7.9	15.1	12.1	19.8	13.0	15.8	7.9	8.9	8.5
合計	0.4	7.8	4.4	3.1	4.1	3.7	13.1	14.6	13.9	10.6	10.4	10.5

【図 43】現在治療を受けている病気の割合（男性）



【図 44】現在治療を受けている病気の割合（女性）



参考情報

項目間の関連性

網羅的にすべての項目間の相関係数を算出し、相関係数（ρ）の絶対値が 0.2 以上で、P-value が 0.05 未満のものを「関連あり」として抽出した。以下、主な項目と関連があったものを記載する。

① 年齢

DMF 歯数関連の項目、歯数および 4mm 以上の歯周ポケットの有無と関連があったが、他には「歯や口の状態で気になるところ」の「噛めない」、定期歯科検診の種類、現在治療を受けている病気の有無、さらにその中の高血圧、糖尿病、心臓病および粗鬆症と関連が認められた。

② 性

性差があったのは、歯みがきの頻度と喫煙習慣。

③ 歯みがきの頻度（1 回/2 回/3 回以上/ときどき/みがかない）

性のみ関連があった。

④ フロス・歯間ブラシの使用

補助清掃器具の使用のみと関連があった。

⑤ 定期歯科検診受診の有無（この1年、受けた/受けていない）

対象者属性、未処置歯数、受けている歯科定期健診定期歯科検診の種類と関連があった。

⑥ 定期歯科検診の種類（歯科医院で毎年/市町村・職場で毎年/毎年定期的には受けてない）

対象者属性、未処置歯数、定期歯科検診受診の有無と関連があった。

⑦ 喫煙習慣

性差のみ。

⑧ 現在治療を受けている病気の有無

う歯数、歯数、高血圧（で通院の有無）、糖尿病（で通院の有無）、脂質異常症（で通院の有無）、その他の疾患（で通院の有無）と関連があった。

以上は単純に二項目間の関連性なので、年齢や性などで層化あるいは多変量解析などの分析が必要である。

参考資料

○令和7年度　県民歯科口腔保健実態調査実施要領

令和７年度　県民歯科口腔保健実態調査実施要領

長野県健康福祉部健康増進課

１　目　　的

県民の歯科口腔保健に関する意識や状況等を把握し、過去の県民歯科口腔保健実態調査結果と比較する。

また、県が実施する種々の歯科口腔保健対策事業の効果についての検討や、長野県歯科口腔保健推進条例の第10条に掲げる基本的施策の実施状況及び第３期信州保健医療総合計画に掲げられた歯科口腔に関する指標の達成状況の判定を行い、今後の歯科口腔保健医療対策の推進を図るものとする。

２　実施主体

県（県歯科医師会及び事業者に委託）

３　調査時期

令和７年９月　～　令和７年11月

４　調査内容

・　別紙「令和７年度　県民歯科口腔保健実態調査票」＃01、＃02のとおり
・　実施方法等詳細については、別添「令和７年度　県民歯科口腔保健実態調査実施マニュアル」参照

５　調　査　者

長野県歯科医師会会員のうち、本調査への協力を承諾した会員

６　調査対象者等

・　「５　調査者」の開業する歯科診療所に通院する15歳以上の患者のうち、調査への協力に同意を得た者
・　調査数は別添「郡市会別サンプル数」のとおり

○令和7年度　県民歯科口腔保健実態調査票

令和7年度
県民歯科口腔保健実態調査票

#01

実施日	令和　　年　　月　　日

郡市会番号	医療機関番号	通しNo.	生年月日	性
			T・S・H　年　月　日(年齢:　歳)	1 男性　2 女性

調査時の対象者属性（いずれかに○）		
		定期管理中（間隔:　月）
		治療中
		それ以外

1. 口腔内所見

出血																出血
ポケット(mm)																ポケット(mm)
欠損補綴																欠損補綴
永久歯	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	永久歯
乳歯		上 右		E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	左 上			乳歯
		下		E	D	C	B	A	A	B	C	D	E	下			
永久歯	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	永久歯
欠損補綴																	欠損補綴
ポケット(mm)																	ポケット(mm)
出血																	出血

〈記入記号〉

歯

健全歯:	／
未処置歯(歯冠部):	C
未処置歯(根面部):	R
未処置歯(歯冠部+根面部):	RC
処置歯:	○
喪失歯:	△
未萌出, 便抜, 先欠:	空値

欠損補綴

可撤性義歯:	D
ブリッジダミー:	Br
インプラント:	Im
なし:	空値
診査不可:	×

歯周

ポケット
測定値(mm)を記入

出血
所見あり　✔

2. 他の所見

口腔清掃状態
□ 良 好　□ 普 通　□ 不 良

歯石沈着
□ ない・少ない　□ 中等度　□ 多 い

その他
□ な し　□ あ り(具体的内容　　)

令和7年度
県民歯科口腔保健実態調査票

#02

（全ての項目について、もれなく回答を記入してください）

問1 歯や口の状態について気になることはありますか。
あてはまる番号のすべてに○印をつけてください。

1. ない
2. 歯が痛い、しみる
3. 歯ぐきが痛い、はれている、出血がある
4. 噛めないものがある
5. 飲み込みにくい、むせやすい
6. 味が分かりにくい
7. 口がかわく
8. 口臭がある
9. 舌がよく動かない、滑舌が悪くなった
10. その他（　　）

問2 歯をみがく頻度はどれくらいですか。（歯が全くない人は除く）
あてはまる番号を1つだけ選んで○印をつけてください。

毎日みがく（ 1. 1回　2. 2回　3. 3回以上 ）
4. ときどきみがく
5. みがかない

問3（歯ブラシによる歯みがきに加えて）以下に示す清掃をおこなっていますか。
あてはまる番号のすべてに○印をつけてください。

1. デンタルフロスや歯間ブラシを使った、歯と歯の間の清掃
2. 舌の清掃
3. その他（　　）
4. おこなっていない

問4 ①あなたはこの1年間に歯科検診を受けましたか。
あてはまる番号のどちらかに○印をつけてください。

1. 受けた
2. 受けていない

（「1. 受けた」と回答された方は②にもご回答ください。）

②どのように歯科検診を受けていますか。
あてはまる番号を1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 歯科医院で毎年定期的に受けている
2. 市町村，職場で毎年定期的に受けている
3. 毎年定期的には受けていない

問5 たばこを吸いますか。
あてはまる番号を1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 毎日吸っている
2. 時々吸う日がある
3. 以前は吸っていたが、今は吸っていない（ 10年前まで）
4. 吸わない

問6 現在治療を受けている病気があれば教えてください。
あてはまる番号のすべてに○印をつけてください。

1. 通院していない
2. 高血圧
3. 糖尿病
4. 脳卒中・脳梗塞
5. 心臓病
6. 脂質異常症
7. がん
8. 肺の病気
9. 骨粗鬆症
10. 腰・膝関節痛(関節リウマチ)
11. その他（　　）

メモ（実施施設記入欄）